

令和3年度事業報告書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

公益財団法人 **オイスカ**

目次

はじめに

1. 海外開発協力事業	1
2. 「子供の森」計画事業	1 0
3. 人材育成事業	1 4
4. 啓発普及事業	2 4
5. 収益事業	4 0
6. 組織の運営	4 1

はじめに

本年2月24日にロシアがウクライナに軍事侵攻して以来、国際社会ではその推移と対応に大きな関心が注がれています。歴史的な経緯はさておき、平穏な生活を営んでいた罪のない人々が一夜にして戦禍に見舞われ、何百万ものウクライナ国民が国外へと避難している状況には胸が痛みます。その後3か月余の動きを見ていますと、国際社会は新たな対立の中、歴史的に大きな転換点にあると同時に、国際社会の一員として私たちも決して他人事ではないことを強く感じます。

では、オイスカとして何ができるのか。これまでウクライナとは直接的な関係や具体的な活動はありませんが、半世紀にわたる国内研修センターでの人材育成の経験を活かせるオイスカらしい協力として、日本政府の避難民受け入れ表明に応える形で、オイスカも受け入れが可能である旨を政府当局に表明いたしました。現時点ではまだ具体的な受け入れには至っていませんが、マッチングでき次第、避難民の受け入れも進めていきたいと思っております。

さて、令和3年度は前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延による影響で、国内外ともに活動に大きな支障をきたしましたが、それでもスタッフや関係者の努力で可能な範囲での活動を粛々と実施することができました。これもひとえに賛助会員や支援者の皆様の心温まるご参加とご尽力の賜物であると深く感謝いたしております。

特に令和3年度は秋に創立60周年を迎え、コロナ禍ではありましたが、記念のイベントを東京で開催し、EBS（生態系を活用した課題解決）、BBS（ビジネスセクターとの連携による課題解決）を基軸とした、10ヵ年計画を発表しました。オイスカは国際協力NGOとして、引き続き国連が掲げた持続可能な開発目標（SDGs）達成に貢献するため地球環境保全、災害に強い生態系の構築等をアジア・太平洋地域を中心に実践してまいります。

そうしたなかこの一年、ミャンマーではコロナ禍に加え軍事クーデターが発生、またフィリピンでは台風によってネグロスを中心にプロジェクトも大きな被害を受けるなど、予測不可能な自然災害や政情不安に直接見舞われました。そうした状況を受け、緊急募金などを実施。それぞれ復旧支援、活動支援を行いました。

国内の研修センターでも2か年に及ぶ研修生不在の状態が続きましたが、今

年に入ってから外国人の入国制限が徐々に緩和され、この3月から研修生や技能実習生たちも来日し始めました。結果、本年はほぼ通常の人材育成事業が実施できる状態に戻りつつあります。また、国内における森林保全活動においても森林整備の体験活動や自然体験なども多くが中止となり、海岸林再生プロジェクト、富士山の森づくりなどの活動にも大きな影響を受けましたが、この春からはそうした活動も再開できており、4年度は従来のできるものと期待しております。

財政面では、コロナ禍の影響をもろに受け、前年度同様に厳しい結果とはなりましたが、各種事業への可能な限りの取り組みと支援者各位のご協力を得て、①海外開発協力事業、②「子供の森」計画事業、③人材育成事業、④啓発普及事業の公益4事業を実施することが出来ました。改めて関係各位に御礼申し上げます。

オイスカに対する国内外からの期待は年々高まっており、その期待と多様なニーズに応えられるよう、活動の効率化、財政健全化に向けて取り組んで参りたいと思いますので、引き続きオイスカ活動へのご支援とご協力、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和4年6月

公益財団法人オイスカ
理事長 中野 悦子

1. 海外開発協力事業

総括

コロナ禍も約2年が経過し、徐々に新しい日常の中での活動も進み、ウズベキスタンでの大規模植林実施など新たな10年に向けた計画も創立60周年を機に策定され、スタートしている。オンラインによる代替活動、一時的な休止などある程度の影響は受けつつも、自然再生・保全活動、海外人材育成、持続可能な産業の開発・促進を中心とした事業を当年度も推進できた。

自然再生・保全活動では、持続可能な森づくりを推進するため、住民の生計向上を組み入れた事業を心掛け、気候変動や環境破壊のリスクにも対応できるような人工物の建設も取り入れた陸と沿岸の環境保全活動を継続した。また、タイにおいては外務省の日本NGO連携無償資金協力（以下、N連）による環境に配慮した生計向上プロジェクトも実施した。

海外人材育成では、感染対策に十分配慮して一部研修センターでの活動を再開し、リーダーシップを発揮できる有為な人材の育成に努めるとともに、地域の発展にも貢献しうる人材育成という観点からも多様な研修内容の提供に努めた。

持続可能な産業の開発・促進では、フィリピンでの養蚕普及事業、インドネシアでの伝統的な生活様式を守りつつ生活基盤を整備し生計向上を図る事業で、N連を活用して地域の指導層や農民とともに活動し、オンライン研修やインフラ整備などで技術向上などの意識を高め、事業地の発展に寄与するよう事業を実施した。「ふるさとづくり」をコロナ禍においても着実に展開しつつある。

また、増えつつある自然災害への対応、社会情勢の不安定化に対する支援として、本年度もフィリピンやミャンマーへの募金を実施し、多くの賛同を得て緊急、復興支援を実施した。

これらの取り組みから特徴的なものをいくつかを取り上げ以下に紹介する。

1. プロジェクトの実施成果

<自然再生・保全活動>

オイスカはEcosystem based Solution (EBS)＝自然の力で社会課題を解決すべく、令和3年度も引き続き世界各地の海岸沿いでマングローブ林、山々の森の保全並びに再生活動をフィジー、インドネシア、フィリピン、タイ、バングラデシュ、パプアニューギニアそしてウズベキスタン等の各国で実施し、約27千ヘクタール、約75万本の森林再生を行った（「子供の森」計画での植栽分含む）。

植林と併せて、保全に関わる活動も各地で行った。保全活動は、ある意味、森林再生（植林）活動以上に森の形成・維持にとって不可欠な活動だ。例えば、一般的にマングローブが育つ熱帯の沿岸域は貧困層が多く住み、人口密度も結構高い傾向がある。エビの養殖池として最適な環境でもあるため、伐採され養殖池に転換されてしまうリスクも常にある。住民の世代交代は速い。ゆえに、保全意識の薄い住民が植林地の周辺に常にたくさん存在する可能性が高いことを意味する。

こうした課題の解決へ向けて、例えばインドネシアでは、住民で構成される植林グループを保全グループに再組織して、啓発活動・マングローブ保全の上に成り立つ生計向上支援を行っている。プロジェクト終了後も将来に渡ってこの保全グループが、マングローブを守っていてもらうために。令和2年度も、コロナ禍が徐々に治まりはじめた同国では、マングローブツーリズムの再稼働支援、マングローブコーヒー、マングローブスナック、中華料理の具材になるソフトシェルクラブの養殖、養蜂などの促進を行った。

住民の生計向上以外の保全活動として重要なのが、海面上昇等に伴う波による沿岸浸食問題などへの対処だ。インドネシアのデマック県ベドノ村では、村が水没し沿岸浸食され時には成木に近いマングローブでさえもなぎ倒されるほどの被害が起きていたが、マン

ローブと村を守るために2019年度コンクリート製の堤防を築いた。これにより、村の居住地、その外側のマングローブ両方がしっかりと守られるようになった。さらにはその後堤防の内側・外側に土砂が堆積しはじめ、2021年度（令和3年度）には、マングローブを植えることもできるまでになった。堤防とマングローブが補完しあいより強固に沿岸を守る体制ができつつあるということだ。東北学院大学名誉教授の宮城豊彦氏によればこうした対処方法を、グリーンインフラ（マングローブ植林）とグレーインフラ（コンクリート堤防）の組み合わせ事例であり今後気候変動に起因する異常気象に対処していくうえで有効な対策の一つであるとしている。

1. ラノー州のマングローブ林再生を通じた社会的弱者層生計向上プロジェクト

外務省日本 NGO 連携無償資金協力の支援を受けて2021年3月よりタイ南部での森林保全・再生並びに生計向上プロジェクトを開始した。本プロジェクトではタイ南部ラノー州の4地域（1村3島）を対象地とし、マングローブ植林による環境保全・再生、住民への啓発活動に加え、漁具貸し出し、水産物等の加工・販売、エコツーリズムの実施等、環境に配慮した生計向上プロジェクトを計画している。本年度はプロジェクト初年度ということで啓発や住民との話し合いなど活動の基礎作りに重きを置いた計画だったが、開始直後からコロナによるロックダウンで対象地への入島が禁じられるなど、なかなか想定通りに活動を実施することができなかった。ただその中でも、会合の回数や人数、実施時期など臨機応変に対応しながら可能な限り活動を実施し、住民のプロジェクトへの理解も深まるなど一定の成果を達成することができた。今後もコロナ禍での活動実施とはなるが、引き続き当初の目標達成を目指しつつ現地の状況を見極めながら柔軟に活動を実施していく。

<海外人材育成>

これまで、主にアジア太平洋地域において、農村地域の農業振興や環境保全活動のリーダーとなる人材の育成に取り組んできた本事業であるが、その取り組みには様々な形態がある。政府との良好な信頼関係から長期にわたり活動を続けているマレーシア・サバ州と、日本への人材送り出し機関としても機能し始めているフィリピン・ネグロス島での活動についてここでは紹介する。

（マレーシア・サバ州）

本年は、マレーシア政府農業食品産業省傘下のKPDオイスカ青年研修センター（以下、センター）で16か月のコースで農業一般、食品加工、稲作、キノコ栽培、家畜飼育などの研修を実施し、リーダーシップと技術の育成に努めてきた。

センターでも新型コロナウイルス感染拡大の影響から、一部の研修生が感染し研修から隔離されるケースも発生したが、隔離期間をそれ以外の研修期間中で補うことによりすべての研修生が研修コースを修了することができたことは特筆に値する。隔離者が増加した時期はスタッフや残された研修生で作業等をカバーする必要もあったが研修を中断することはなかった。また、外部からの訪問は禁止されていたが、現在は少しずつ通常の研修形態に戻りつつある。

キノコ栽培の研修グループに属した研修生の一人からは「本研修は無料で提供され、貧困層にも広く研修の機会を与えていることがメリット」という声も聞かれ、農村の発展に着実に寄与しているといえる。

（フィリピン・ネグロス島バゴ）

新型コロナウイルス感染拡大が収束しない中ではあったが、本年度バゴ研修センターでは総数21名の研修生および技能実習生の受け入れをおこなった。内10名は農業研修生で日本語教師による日本語、稲作、野菜栽培、また養蚕関係では蚕飼育、桑畑管理、さらに製

糸関係では繰糸、機織りなど学んだ。また7名は技能実習生で訪日前研修の一環として日本語を主体にしながら、センター内で溶接実習や自動車整備、またボイラーの管理法などを学んだ。残り4名は家政研修生で研修修了後、2年目の研修に進んだ。

日本側のコロナ禍による入国制限が緩和された年度末の3月に入り、待機していた技能実習生で溶接の2名、コンクリート製造の3名が訪日研修をスタートさせた。残りは翌月の訪日が予定されている。

バゴ研修センターでは日本からの青年受入れによる熱帯農業研修も行っているが、本年度はコロナ禍により一人の受入れも実施されなかった。そのためセンターの農場管理は多忙であった。

年度明けて1月から3月までの3ヶ月間にわたり、近隣高校から学生22名を受け入れて野菜栽培の短期研修を行った。バゴ研修センターでは多岐にわたる研修が可能とのことで、毎年内外から研修受入についての問い合わせが多く寄せられている。

<持続可能な産業の開発／促進活動>

持続可能な産業の育成は、生計向上が伴ってこそ成功する環境保全や開発と表裏一体のものである。いかに生活環境の改善が図られようとも食の供給を基礎とする生計維持の機能が途絶えては、社会インフラとしての環境改善の持続性は見込めない。現代においてはニーズもさまざまであり、生産者と支援者や消費者を結びつける役割としてのわれわれのようなNGOの存在は、お互いのニーズを把握している点において優位に働く。こうしたマッチングを助けることにより開発途上地域の人々に裨益する産業を生み出していくような動きが望まれている。本年度も以下のような取り組みが進められたので紹介する。

1. ネグロスシルク事業を基盤とする養蚕普及全国展開支援事業（フィリピン）

昨年度来新型コロナウイルス感染拡大が続く中、本年度N連事業として最終年度を迎えた本事業はコロナの収束を願いつつも昨年度の経験を活かし試行錯誤しながら取り組んだ1年であった。

活動ではオイスカ・バゴ研修センターでの各地域代表者による養蚕振興リーダーセミナー及び農家の短期研修実施の再開に期待を寄せていたが、コロナ禍を受けて昨年同様大半はオンライン方式でのセミナー開催となった。6州（ベンゲット、ヌエバビスカヤ、アクラン、イロイロ、アンティケ、東ミサミス）120名が参加し、養蚕についての基本や実際に桑を使って蚕への給桑方法を示すなど、工夫をこらしての説明が行われ一定の成果を得た。それでも事業終盤の第4四半期にコロナの収束が見られたことから3州（ベンゲット、イロイロ、アクラン）から23名の参加を得て研修センターでの短期研修を行うことが出来たことで本来の実地体験による成果が得られたことは大きい。

日本人専門家による技術指導は残念ながら渡航が叶わず今年度も実施出来なかった。それを補う形として移動が制限される中、事業担当者及び現地スタッフが農家への巡回指導を行なった。各農家の現状を把握するとともに現場での実施指導と質問に対しての丁寧な解説など細かい指導をおこない農家にとっては養蚕への不安を払拭することが出来た。

本年度、ベンゲット、ヌエバビスカヤ、東ミサミスの3州で合計17棟の壮蚕所建設が計画されていたが、予定通り実施することが出来た。蚕飼育の要となる蚕室の有無はその後の繭増産に大きく影響するため建設が予定通り完了したことは幸いであった。

また日本からの製糸機械部品の供与計画はコロナ禍により輸送船舶にも大きく影響を及ぼし年度内での実施が危ぶまれたが、こちらも予定どおり無事サイトに搬入することができ製糸場の担当者も安堵した。

一方で昨年12月、大型台風「オデット」がネグロス島を直撃し養蚕農家43戸の壮蚕室が全壊または半壊し、さらにオイスカ・バゴ研修センターの研修棟や食堂、そして製糸工場の要となるボイラー棟が甚大な被害を受けた。その後の養蚕事業再開が心配されたが、早速日本からの支援金や現地JICAマニラによる資材の現物支給がおこなわれ復旧作業が急ピッチ

で進んだことで徐々に農家による繭生産が可能な状態になってきている。またボイラー棟の修復により製糸工場も稼働できるところまで回復しており、生糸生産に向けた体制が整いつつある。

2. 伝統的生活様式を守って生活する共同体の生活基盤の整備と生活環境の改善、生計向上の支援事業（インドネシア）

令和2年度より日本 NGO 連携無償資金協力により開始した「伝統的生活様式を守って生活する共同体の生活基盤の整備と生活環境の改善、生計向上の支援事業」の2年次が、1年次の延長により7月より開始となった。本事業は、西ジャワ州スカブミ県の山岳部に居住する、スンダ族の伝統的な生活様式を守って生活する共同体を対象に、住民の生活環境の改善と生計向上を目指すもので、その住民2,300名が事業の対象となっている。

本年度は、新型コロナウイルスによる影響を受けつつも、事業を休止することなく、1年次に実施した用水路補修工事を通じて生活用水の供給を受ける世帯が全体の55%から85%へと上昇し、小水力発電機の通年稼働により105世帯への電力の安定供給を実現することができるなど水環境の改善に貢献した。また、生活基盤の整備として簡易な廃棄物処理施設の建設を行い、収集時の用に供するための分別用ゴミ箱等についても設置を完了した。

また、住民に対する生計向上の一環として実施した野菜栽培に関しては、事業実施前に比べて平均で63%の収入増になり、これに寄与する結果が如実に表れている。一方のアグロフォレストリーや畜産、養魚については、収穫に至っていないため成果を図ることができずにいるが、3年次には貢献するものと期待している。今後は新型コロナウイルス感染状況の落ち着きとともに、移動制限の解除などにより一層生計向上に寄与することが見込まれる。

<緊急・復興支援>

・ミャンマー支援

一昨年から続く新型コロナウイルスの感染拡大と、2021年2月1日に発令された国家非常事態宣言により、ミャンマーの多くの人々が経済・社会活動制限の影響を受け、困難な状況に置かれることとなった。

オイスカでは、4半世紀前より活動の拠点を置いてきた農村地域の人々の支援を目的に、2021年7月1日から9月末まで「ミャンマー支援・緊急募金」を日本全国に呼びかけ、全国のオイスカ会員の方々を始めとする865名の方から1400万円を超える寄付が集まり、それらを元に、困窮している農村地域の人々の支援を開始した。

初動として、今回の政変による物価の高騰や深刻な現金不足、収入の減少といった困難に直面し、栄養失調や飢餓状態の人が増加する懸念があることを踏まえ、まずは特に困窮度が高い住民を対象とした緊急の食糧支援を実施することを決定。56村の3433世帯（約1万5千人）を対象に、米、食料油、卵、野菜などの食料を配布した。その後、対象地域の主産業である農業などの生活基盤などの再建に向けた支援を開始。資材価格の高騰などの困難に直面している農民に農業資材供与と小規模融資を組み合わせた支援を実施すると同時に、現地で長らく取り組んできた有機資材を活用した循環型農業技術の普及指導など、3月末までに12村360世帯を対象に支援を実施した。現地の安定しない治安状況下、引き続き、現地スタッフは、困窮している農村の人々を支援する取り組みを継続していく。

・フィリピン台風被災復興支援

2021年12月16日から17日にかけてフィリピンを直撃した台風22号は、同国中南部を中心に甚大な被害をもたらし、405人が亡くなった。（2021年12月31日、フィリピン災害対策局発表）。オイスカの活動地でも、ネグロス島にあるバゴ研修センター（以下、センター）の敷地内で大木が倒れて建物が損壊するなど、深刻な被害を受けた。また、センターを拠点に展開する養蚕普及事業に関しても、製糸過程で欠かせないボイラーがある建物に深刻な被害が出ているほか、島内で繭を生産する農家でも、養蚕のための施設が全壊したケ

ースもあり、大きな影響を受けた。オイスカでは、12月から1月にかけて実施していた冬募金の支援項目に「海外災害支援」を加え、12月21日よりネグロスの被災地支援の呼びかけを開始し、これまで現地を訪れたことのある全国の会員や支援者の皆さまをはじめ、多くの寄附が届いた。

ネグロス島内の養蚕農家は、地域別にそれぞれマビナイ地域12軒、サンカルロス地域15軒、カラトラバ地域16軒の養蚕農家が大きく被害を受けた。マビナイ地域は、特に被害も大きく蚕室（蚕が育つ建物）の立て直しが必要なため、建設計画を進めるところから始まった。一方、サンカルロス地域とカラトラバ地域は、新しい建設ではなく、既存の蚕室の修理を行った。台風直後から養蚕普及員が各農家を巡回し、農家ごとに必要な資材を確認し、修理資材を届けた。3月22日には、マニラにあるJICA（独立行政法人国際協力機構）・フィリピン事務所より養蚕農家に対する資機材のご支援を頂き、30戸以上の蚕室の新築と修理のための資材（砂、砂利、セメント、トタン板、木材等々）がバゴ研修センターに届いた。到着後、5月上旬までにかけて養蚕普及員による資機材の配達完了した。現在は、各農家での蚕室の再建が進んでいる。

センターの建物には大木が倒れ、いくつかの施設が損壊。建物などに倒れた大木約60本は、4台のチェーンソーを稼働し切断、製材まで行い、ベッドや机、イスなどの作製に役立てる予定である。大木が屋根を直撃したボイラー建物は、養蚕事業の製糸過程に欠かせない。そのため、ボイラー建物の修理を優先的に行った。まず損傷を受けた屋根を取り外し、新しい鉄筋を組んだ。パナイ島アクラン州の機屋さんなど、フィリピン国内の生糸の需要に応えるため、2月から再稼働。現在は、製糸を行い、生糸を生産出来るようになった。また、小教室の屋根の修理も行われ、3月からは養蚕農家を対象とした養蚕研修や訪日予定の学生に対する日本語授業が開催できるようになった。一方、ダイニング、キッチン、宿舍など被害の大きい施設は、シートを被せたままの状態が続いていたが、5月上旬から修復作業を行う予定になっている。

<調査研究・専門家・指導員派遣>

ウズベキスタン・アラル海湖底での緑化に関する考察

期間：2021年3月～2022年4月（現地出張は2021年3月～4月、2022年3月～4月の二回）

実施国：ウズベキスタン カラカルパクスタン

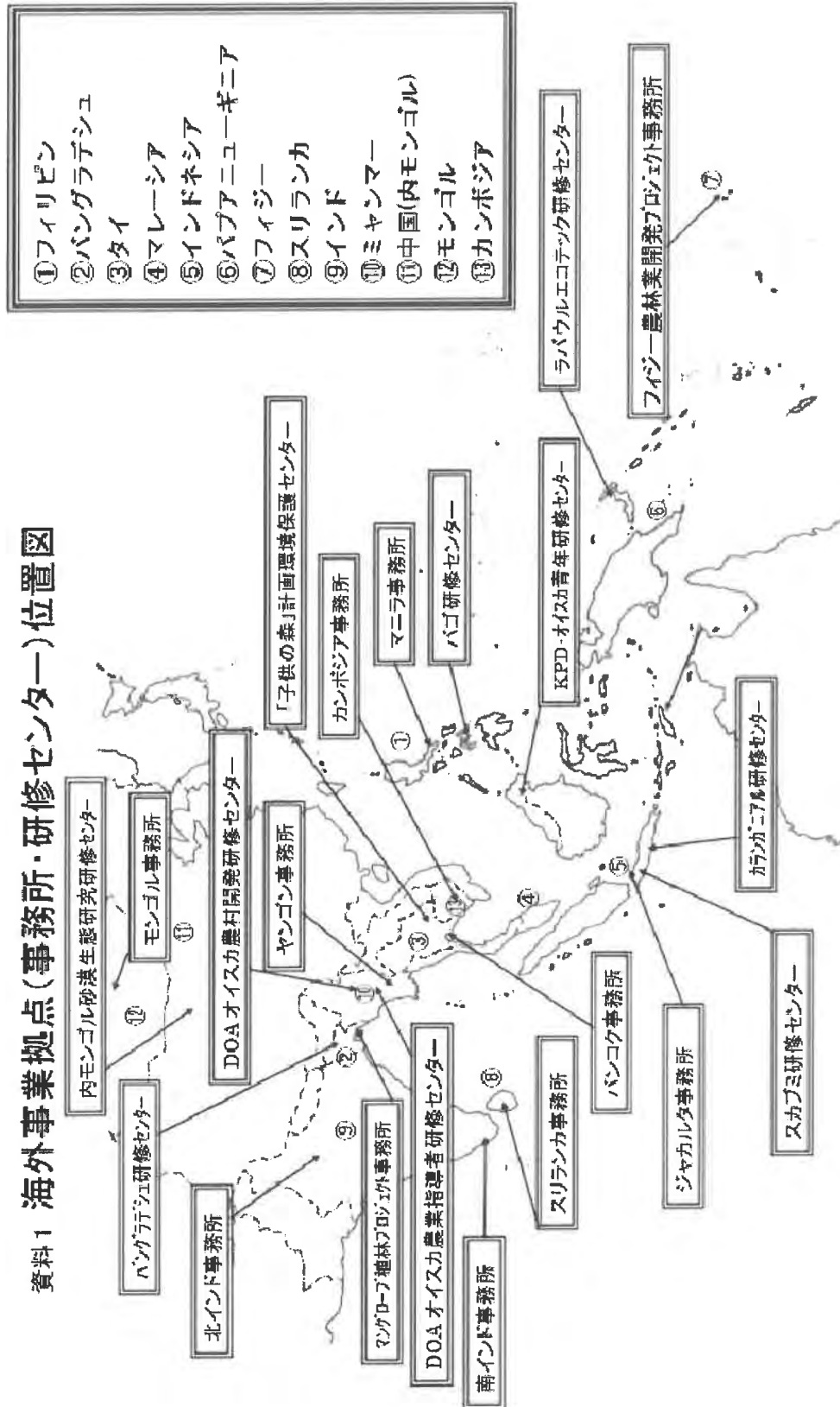
実施者：長宏行・冨樫智

かつて広さ世界第4位の湖だった「アラル海」であるが、現在では面積が5分の1以下にまで縮小し、干上がった面積は約540万ha（九州地方の約1.2倍）にも上っている。干上がった湖底は塩分を大量に含み不毛な沙漠へと化している。緑化により塩害を抑えることが期待できる。しかし、湖底の沙漠の塩分濃度はpH8.5、EC115mSm⁻¹、降水量は年間平均50-100mmという厳しい環境下で育つ植物は非常に少ない。今回はこうした環境でも育つ可能性のあるサクサウル（学名 *Haloxylon spp.*）の植樹実験を試みた。植樹には2年生の苗を用い、2021年3月26日から2日間、カラカルパクスタン共和国（ウズベキスタン内にある自治共和国）のアラル海湖底であった沙漠に7,500本を植えた。1年後2022年3月、モニタリングを行ったところ約60%という高い生存率であることが分かった。

一般的に言って沙漠での植林事業での木々の生存率は非常に低く、30%あれば成功と判断しても不思議ではない。このような高い生存率を得た原因について分析・考察してみた。試験地はかつてアラル海という湖であったこともあり地中の水分が他の一般的な沙漠に比べ多い。また、地下水位も高く、降水量が低くても苗が水分を吸収しやすい条件にある。通常の植物であれば高い塩分濃度が災いして枯死してしまうところであるが、サクサウルは塩分を含んだ水分を吸収する際、塩分のみを排出する機能を有している。また、他の乾燥地

帯と違い放牧家畜がほとんど存在しないことも要因となっていると思われる。今後は、地表水分の蒸散を防ぐ現地の資材を用いたマルチの開発、サクサウル以外の適正樹種を選択・試験などを行っていきたい。

資料1 海外事業拠点(事務所・研修センター)位置図



資料2 海外駐在員派遣リスト

	氏名	担当業務
インドネシア		
1	中 垣 豊	農業技術指導・運営管理
2	中 垣 アダ	調整・渉外
3	木 附 文化	運営管理
4	大 垣 直哉	調整・渉外
フィリピン		
5	渡 辺 重美	運営管理
6	石 橋 幸裕	運営管理
7	中 川 春希	調整・渉外
タイ		
8	春 日 智実	運営管理
9	高 木 美智代	調整・渉外
パプアニューギニア		
10	荏 原 美知勝	農業技術指導・調整
フィジー		
11	ジ ョセリン マクンハイ	調整・渉外
12	清 水 和 雄	運営管理

資料3 海外事業拠点別 現地スタッフ及び、受入研修生数

No	国名	センター・事務所	現地スタッフ	研修生
1	バングラデシュ	バングラデシュ研修センター	12	0
2		チッタゴン・マングローブ植林プロジェクト事務所	3	-
1	インド	南インド事務所	14	0
2		北インド事務所	3	-
1	インドネシア	スカブミ研修センター	54	43
2		カラングニアル研修センター	8	38
3		ジャカルタ事務所	1	-
1	マレーシア	KPD-オイスカ青年研修センター	23	54
1	モンゴル	オイスカモンゴル事務所	2	0
1	ミャンマー	ミャンマー農村開発研修センター	24	0
2		ミャンマー農業指導者研修センター	14	0
1	フィリピン	マニラ事務所	3	-
2		バゴ研修センター	16	21
3		ヌエバビスカヤ植林プロジェクト	2	-
4		パラワン研修センター	3	0
5		ダバオ研修センター	3	0
6		アブラ農林業研修センター	5	21
7		ヌエバエシハ研修センター	2	11
1	スリランカ	スリランカ事務所	6	-
1	タイ	北部タイ緑化プロジェクト (チェンライ)	3	-
2		マングローブ・プロジェクト (ラノー)	6	-
3		「子供の森」計画環境保護センター (スリン)	1	-
4		「子供の森」計画 (コンケン)	1	-
5		バンコク事務所	6	-
1	カンボジア	カンボジア事務所	3	-
1	フィジー	フィジー農林業開発プロジェクト事務所	7	33
1	パプアニューギニア	ラバウル・エコテック研修センター	13	0
1	中華人民共和国	内モンゴル砂漠生態研究研修センター	5	0
合計			243	221

*現地スタッフとは、法人の直接雇用ではなく個別プロジェクトのニーズに見合う臨時雇用者を現地採用しているスタッフ

2. 「子供の森」計画事業

1. 総括

オイスカが創立 60 周年を迎えた 2021 年、「子供の森」計画（以下、CFP）も事業開始 30 周年を迎えた。しかし 2020 年より続くコロナ禍、自然災害の激化、そして社会情勢の緊迫化などにより、例年以上に事業を継続する上で多くの困難に直面する一年となった。新型コロナウイルスに関しては、度重なる変異株の拡大によって活動地にまで感染が蔓延するケースが増え、前年以上に政府による規制が強化され、学校が再び長期にわたり休校となるなど、多くの国で学校を拠点とした活動が難しい状況が続いた。ミャンマーでは、2021 年 2 月に発生した政変によって、経済や市民生活が悪化し、抗議運動に参加する先生や安全面への懸念から子どもを登校させたくない保護者も多く、21 年 6 月に新学期が開始したものの、出席率は半数ほどしかない状況が続いている。一方フィリピンではルソン島を直撃した台風 18 号や、中部を襲った台風 22 号といった大型台風の襲来により活動地にも甚大な被害が発生。コロナ禍の陰に隠れているが、各国で土砂崩れや洪水、乾期の干ばつなどといった自然災害、気象害は深刻化している。

活動地でも人々が困窮し子どもたちの学びの機会も不足する中、支援ニーズは高まっているものの、リスクや制限により支援活動自体が厳しいという難しい局面を多く迎えていることとなった。しかしこうした時であるからこそ、海外スタッフとも連携を密にし、混乱の影響を最も受けている子どもたちに CFP らしい形で寄り添い続けることを確認。各国各地の状況やニーズを調査し、混乱が続いている地域においては、子どもたちの生活や学びを支えるべく、食糧など生活必需品や感染対策用品、また在宅学習に必要な資材の支援を展開した。環境保全については、多数の子どもたちが参加する活動や長時間の移動を要する活動は中止を余儀なくされたが、対象校の教員や保護者の協力を得て、参加者数の制限や活動形態を修正することにより、植林活動や環境教育も継続的に実施することができた。なお対象地については、現地のニーズや実行体制に基づき、バングラデシュ、カンボジア、フィジー、インド、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、モンゴル、フィリピン、パプアニューギニア、スリランカ、タイ、中国において、重点的に事業を展開した。

一方、水際対策で渡航が制限され、子ども親善大使事業や海外ボランティアツアーといった現地と日本をつなぐ国際交流事業については、再開の目途が立たなかった。日本国内でも対面で活動について紹介する機会が減る中、より多くの方に活動地の様子を知っていただけるようニュースレターなどの広報物での案内に加え、オンラインを活用した報告会やワークショップを企画・開催。現地の状況や参加者の声をよりリアルに、分かりやすく届けられるよう動画での発信にも注力しつつ、ホームページ・SNS での情報発信にも継続して取り組んだ。こうした広報活動の結果、2021 年度（2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日）の「子供の森」計画支援口数による支援（6,395 口）や企業・団体・個人などからの寄附や募金など合わせた寄附金総額は 46,486,929 円となった。

一方で身近なもので支援できる仕組みとして展開しているベルマークや古本を通じた寄附については、古本回収の申し込み方法がオンラインに完全移行したことや企業からの支援が鈍化していることが要因となり、支援者数が例年に比べ減少している。今後申し込み方法の周知を図りながら、大掃除のシーズンなど適切なタイミングでキャンペーンを企画するなどして露出の機会を増やしていきたい。

なお創立 60 周年にあたり策定したオイスカ 10 ヶ年計画において、CFP では学校単位での森づくり活動に加え、地域課題解決に向けた取り組みを強化することを発表。防災・減災や安全な食の確保、水の保全といった地域ごとの重点課題に対し、自然の力を活用した持続可能なアプローチで自ら行動できる青少年や指導者の育成を促進。効果的な運営を図るために重点国を定めながらも、モデル活動の波及効果により、世界各地の参加校や関係者にノウハウを共有し、10 年間で青少年 50 万人を巻き込むなど、活動の輪を拡げていくことを目標に定めた。

2. 各プロジェクト実施成果

① 学校という枠を超えた環境保全活動を展開

新型コロナウイルスなどの影響により、多くの活動国で休校措置や活動制限が続いた2021年度。前年度コロナ禍での事業展開を経験したことにより、感染リスクの低い地域では、比較的スムーズに学校や地域と調整を進めることができ、必要な感染対策や人数制限等を行いながら緑化活動を継続することができた。なお長期にわたって対面授業が停止された地域では従来の学校単位での取り組みは難しく、活動の場をコミュニティに広げて展開。さらに政変により例年とは全く異なる環境におかれたミャンマーをはじめ、大人数が集会しての活動が難しい地域においては、苗木（特に果実がなるものや薬になるものなど暮らしに役立つ樹種を選択）や肥料などを配り、家庭における植樹を支援する取り組みも合わせて行った。子どもたちには苗木の成長について絵や日記で記録することを宿題とすることで、各自が責任をもって管理を続け、また自然に関する興味や関心を引き出す工夫も行い、家庭で過ごすことが多くなった子どもたちが家族とともに土に触れ、未来のことを考えながら環境保全に参加する機会を届けることができた。なおこうした取り組みも後押しとなり、事業全体の植林実績については2020年度から倍増し、コロナ禍前の数値まで回復している。一方で各種制限や体制面の問題により、思うように実績が伸びなかった国・地域もあり、今後改善すべき課題となっている。

② 生物多様性保全、防災・減災に関する取り組み

これまでオイスカでは、国連生物多様性条約事務局と協約を結び、「国連生物多様性の10年」（期間：2011～2020年。生物多様性の重要性を周知し、多くの主体の参画促進を目的）の具体的アクションとして、CFP参加校を中心にグリーンウェイブ（5月22日の国際生物多様性の日を記念した環境保全活動）に積極的に取り組んできた。「国連生物多様性の10年」は2020年で一つの区切りを迎えたが、現場からの取り組み継続に関する要望も多いことから、2021年以降もグリーンウェイブを青少年の行動のきっかけとして世界各国に呼びかけることを同事務局へ提案し、さらなる活動促進を行っている。2021年度は、7つの国と地域において、288の学校・地域で活動が行われ、合計5,207名が参加した。

深刻化する気候変動や自然災害リスクへの対応として、オイスカ10ヵ年計画でも社会課題解決アプローチの一つとして掲げている「生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）」についても、活動国における取り組みが徐々に広がっている。タイでは特に緑化ニーズの高い地域にてEco-DRRを掲げて重点的に植林を行い、地域の防災の役割を果たせるような環境づくりを進めており、2021年度は7.2ヘクタールを緑化。また気候変動の影響を受けやすい島嶼国フィジーにおいては、洪水や土砂崩れといった災害リスクの高い地域や沿岸浸食が進む沿岸部などにおいて、コミュニティと連携した緑化に注力。現在は（公社）国土緑化推進機構・緑の募金の助成を受けながら、マングローブ植林と合わせて、防風防潮効果のある海岸林を育てるパイロット的な取り組みも進めている。

③ ニーズに沿った支援で課題解決に貢献

長期化するコロナ禍や自然災害、政変などが要因となり、各活動地でも多くの人々が生活に困窮し、支援に対する要望も多く届いた。予算やキャパシティの問題により、そのすべてに手を差し伸べることは難しかったが、特に現地スタッフやオイスカ研修生OBOGらの自主的な支援活動を支える形で、困窮度・緊急度の高いケースにおいて食糧等の支援を実施。ロックダウンにより食料や収入を得る手段を絶たれたカンボジア・プノンペンの人々、フィリピン・アブラ州で大型台風による洪水で浸水被害を受けた被災者などに支援物資を届けた。また長期間対面授業が停止されているフィリピンやスリランカなどでは、前年に引き続き活動校に対して在宅学習教材をつくるための資材を支援し、子どもたちの学びの機会を守る取り組みも継続している。なおほぼすべての活動国において、植林などの活動を行う際には、感染対策として消毒液やマスクなどの衛生用品の支援を合わせて行った。

こうした緊急支援に加え、活動地のうちニーズが高い地域においては企業支援や助成金などを受けて、設備支援を実施。インドネシアやミャンマーの乾燥が厳しく慢性的な水不足を抱える地域では、水問題を解消しながら緑化を進めるべく雨水貯水設備を設置。また TOTO 水環境基金の助成を受けて実施した事業では、インドネシア国内でも最も沿岸浸食が深刻化している中部ジャワ州ドゥマック県において、満潮のたびに浸水被害を受けていたティンブロスロコ第一小学校の教室床や校庭を嵩上げするとともに、絶対数が不足していたトイレや手洗い場を新設。教育面・衛生面での環境が改善され、子どもたちが安心して学べるようになってきている。こうした設備支援を行うことで、地域課題の解決を図るとともに、各整備作業には保護者にも交代で参加してもらい、共に汗を流し語り合うことで、地域課題を共に考え、事業へに対する理解や連携を深める機会にもなっている。

④ 行動できる力を育み、活動の輪を広げる

学校を拠点とした継続的な活動が可能な地域においては、農業実習やリサイクル活動を実施。休校が続くなど課外活動が制限された地域においては、オンラインを活用したセミナーの開催や環境教育の教材を作成・配布するなど、対面を必要としない環境学習の機会を提供した。2020 年度にコロナ禍の家庭における環境学習や、家計を支える取り組みとして家庭菜園の支援を行ったモンゴルやスリランカでは、継続実施のニーズが高く、技術や知識が地域に定着するよう意欲の高い世帯を対象に野菜の種苗や資材を配布し、農業の知識や経験を持ったオイスカ研修生 OBOG が中心となって指導を続けた。

子どもたちに加え、近年は各地域での活動を牽引する教員など指導者層への働きかけも強化している。オンラインも含めて活動の成果や課題を持ち寄り、意見交換を行うワークショップが各国で活発化。参加教員らの環境教育に対するモチベーションが高まり、学校同士の横のつながりも強くなることで、今後さらに情報連携が進み、地域全体での主体的な活動が活発になることが期待される。なお CFP 参加校では、通常環境教育活動を担当する教員は 1 名であり、それ以外の教員はあまり環境教育には関心がないという傾向がこれまで少なからずあった。しかしコロナ禍により、対面授業の停止期間、当直の教員にも緑化やその後の管理に参加してもらうことで、結果としてこれまで環境問題に関心がなかった教員にも CFP についての理解を深めてもらえるよい機会にもなった。今後各種制限が緩和された際には、学外における啓発活動も再開し、地域を巻き込んだ活動へと発展させていきたい。

⑤ オンラインでつながりを継続

各国においてオンラインの活用が進む中、海外の現場と日本をつなぐ取り組みも進んでいる。対面型の報告の機会が少なくなる中、各支援企業への報告においてもオンラインの強みを活かし、現地と中継して報告する形を多くとるようになった。駐在員や現地スタッフによる報告のほか、活動現場からの中継や参加者のインタビューなども交えて、より現場の雰囲気や伝わるような報告を行うことができ、またより多くの方に気軽に視聴いただけることから支援者にも好評をいただいている。また、日本の子どもたちと海外の子どもたちが学びあう機会として、動物の立場になり環境問題について考える交流プログラム、「せかい！動物かんきょう会議」を実施。山口県宇部市の小学生とタイ、モンゴルの子子どもたちがそれぞれ思い思いの動物になりきり、身近な環境課題について問題提起をし、オンラインで意見交換を行う機会を設けた。参加した子どもたちは、普段とは違う見方で環境について考え、自分の地域の環境問題について考えることができただけでなく、海外との違いや共通点、文化について学ぶことができ、国際理解を深める機会となった。今後対面型のイベントなどが再開した際にも、こうしたオンラインの活用は併用して続けていきたいと考えている。

3. 2021年度「子供の森」計画 国別植林実績

累計実績：37の国と地域の5,406校で実施

No.	活動実施国名	2021年度		1991年～ 累積		参加校数 総計	2021年 新規校数
		植林本数	植林面積 (ha)	累計本数	累計面積 (ha)		
1	バングラデシュ	710	1.10	90,888	72.09	236	3
2	中国（内モンゴル）	30,000	10.00	237,910	66.60	17	0
3	カンボジア	2,760	2.48	14,490	19.15	63	12
4	フィジー	4,181	2.60	807,346	589.06	66	1
5	インド	3,015	1.21	1,775,969	1240.88	2,120	4
6	インドネシア	28,975	20.47	450,214	555.99	439	5
7	マレーシア	195	0.40	90,211	83.23	239	1
8	ミャンマー	1,976	0.79	42,352	19.32	89	3
9	フィリピン	10,965	3.73	2,959,767	1105.52	1,162	21
10	パプアニューギニア	1,600	0.80	83,400	53.64	88	5
11	スリランカ	972	0.78	516,484	432.40	358	1
12	タイ	20,100	10.40	649,404	433.62	229	4
	*その他の国・地域	10,600	10.65	170,880	128.06	300	3
合計		116,049	65.41	7,889,315	4799.56	5,406	63

※上記データは2022年3月末時点。

参加校数は、新規植林実績のある学校に加え「子供の森」計画に参加した学校すべての総計値

※ その他の国・地域：

アフガニスタン、アルゼンチン、アゼルバイジャン、ブラジル、エチオピア、ホンジュラス、香港、イスラエル、日本、ケニア、メキシコ、モンゴル、ネパール、パキスタン、パラオ、パレスチナ、パラグアイ、台湾、東ティモール、トンガ、UAE、アメリカ、ウルグアイ、ウズベキスタン、ベトナム

タイ北部・山岳地方での植林活動
(バーンパーミアン・メーブリーグ学校)家庭で植栽する苗木を配布する際にスタッフより
植林の意義や管理方法について説明（ミャンマー）

3. 人材育成事業

総括

前年度からの新型コロナウイルス感染拡大は今年度も収束することなく、1年を通じて人材育成活動にも大きな影響を与えた。

研修センターを基盤とする一般研修では本年度新たな研修生の受入れはなかった。一方でコロナの感染拡大の影響を受けて前年度に研修を終了した一部の研修生が母国の航空事情により帰国できず、例外的措置として研修期間の延長を図ったが、本年度も半年以上に渡り継続された。その結果、それぞれの研修科目における知識や技術のさらなる向上が見られたことは幸いであった。

他方、入国出来ずに待機している研修生の訪日研修に対する意識と関心を高めるために本部が主体となってリモートを活用したオンラインによる個別面談を行った。また各国内センターからは入所予定の研修生に対してセンターの施設状況やスタッフの紹介等を行うなど双方によるコミュニケーションを図った。今回、初めて試みではあったが、訪日してからの研修の充実に繋がることと期待されることとして次年度も行うべきとの提案が出された。今後は継続して実施して行くこととする。

各研修センターでは研修生の入国を想定して従来の作付け計画に基づいて作物栽培が進められていたために夏場の除草作業や収穫時期には多忙を極めた。しかし、賛助会員をはじめとする多くのボランティアの協力を得たことによって、乗り切ることができたことは幸いであった。

技能実習生の受入については一般研修同様、新規の受入はなかったが、前年度から継続している5カ国258名がそれぞれの受入事業所の現場において熱心に実習に励んだ。新規の実習生受入が出来なかったことにより、農業関係では受入を想定して進められていた作物の作付け計画、また工業関係では生産量減を余儀なくされたことにより経営悪化を招くなど影響を受けた事例も報告されたが、各受入事業所ともに次年度受入計画への大幅な変更は報告されていない。

1) 一般研修事業

① 研修員受入状況（国別および研修科目別）

研修 科目	国 別					合 計
	フ イ ジ ー	パ プ ア ・ ニ ュ ー ・ ギ ニ ア	フ イ リ ピ ン	タ イ		
国際協力 ボランティア	1					1
農業技術	2	1				3
家政				1		1
農業指導 OB		1	1			2
地域開発	1					1
合計	4	2	1	1		8

② 本年度研修員氏名一覧

No	氏 名	国 名	科目(委託先)	期間
西日本研修センター(4名)				
1	Mr. Yumop Benjamin	パプアニューギニア	農業指導 OB	2020.1～2021.12
2	Mr. Jeremie Ocumen Trube	フィリピン	農業指導 OB	2020.2～2022.1
3	Mr. Paula Nokomaivuna	フィジー	農業技術	2020.1～2021.12
4	Mr. Max Nandre	パプアニューギニア	農業技術	2020.1～2021.12
中部研修センター(2名)				
5	Ms. Modrau MereseiniVakacoa	フィジー	国際協力 ボランティア	2018.11～2022.5
6	Mr. Laisenia Dolo	フィジー	農業技術	2020.1～2022.3
四国研修センター(2名)				
7	Ms. Mereula Lewaqona	フィジー	地域開発	2020.2～2021.8
8	Ms. Ploy Samdaeng	タイ	地域開発	2020.2～2021.8

2) 技能実習事業

① 農業技能

No	氏名	国名	委託先	期間
耕種農業(施設園芸) 2名				
1	Mr. Barreyro Darwin Bejarin	フィリピン	宇江城安勝	2016.7～2022.1
2	Mr. Preza Zulueto II Talledo	フィリピン	宇江城安勝	2016.7～2022.1
耕種農業(畑作・野菜) 58名				
3	Mr. Baldemor Deo Jomar Tobias	フィリピン	外間宏喜	2016.7～2021.8
4	Mr. Roc John Benedick Bersalona	フィリピン	外間宏喜	2016.7～2021.11
5	Mr. Barbero John Mc Lean Sunio	フィリピン	外間年男	2016.7～2021.11
6	Mr. Labaoan Aquilles Balueg	フィリピン	外間年男	2016.7～2022.1
7	Mr. Belleza Henry Ballo	フィリピン	(有)沖縄ファーム	2016.8～2022.1
8	Mr. Lucban Dindo Jr Bagtas	フィリピン	(有)沖縄ファーム	2016.8～2022.1
9	Mr. Regunton Bernard Zales	フィリピン	(有)沖縄ファーム	2016.8～2021.11
10	Mr. Tesoro Tom James Isao	フィリピン	北日本菅与(株)	2018.5～2023.7
11	Mr. Benitez Ramil Cuevo	フィリピン	北日本菅与(株)	2018.5～2021.5
12	Mr. Alfaro Santy Jay Pilor	フィリピン	北日本菅与(株)	2018.5～2023.7
13	Mr. Imanuel Laupra	インドネシア	(有)さぬき新栄	2018.8～2023.12
14	Mr. Princena Christian Benosa	フィリピン	山本一守	2018.9～2023.12
15	Mr. Muhammad Ali Ridho	インドネシア	仲吉勝弘	2018.11～2021.11
16	Mr. Ahmad Kamal Fasya	インドネシア	仲吉勝弘	2018.11～2021.11
17	Mr. Pitus	インドネシア	中村伸次	2018.11～2021.11
18	Mr. Anggi Deni Supriyanto	インドネシア	金城敏	2018.11～2021.11
19	Mr. Imam Saputra	インドネシア	大城清広	2018.11～2021.11
20	Mr. Beny Adji Saputro	インドネシア	大城清助	2018.11～2021.11
21	Mr. Darwin Simanjuntak	インドネシア	竹内農場	2018.11～2023.12
22	Mr. Wisnu Nugraha	インドネシア	玉城忍	2018.12～2021.11
23	Mr. Muhammad Isa Sayti	インドネシア	(有)さぬき新栄	2019.4～2022.4
24	Ms. Desi Milawati	インドネシア	(有)さぬき新栄	2019.4～2022.4
25	Ms. Dara Kartica Sembiring	インドネシア	(有)さぬき新栄	2019.4～2022.4
26	Mr. Ainur Rasyid	インドネシア	(株)木下	2019.4～2022.4
27	Mr. Beboso Geneil Aurea	フィリピン	農業生産法人アグリサ ポート南大東(株)	2019.7～2022.7
28	Mr. Cordero Joemar Sison	フィリピン	農業生産法人アグリサ ポート南大東(株)	2019.7～2022.7
29	Mr. Borres Elizier Dula	フィリピン	農業生産法人アグリサ ポート南大東(株)	2019.7～2022.7
30	Mr. Mina Jeffrey Macasiray	フィリピン	(有)沖縄ファーム	2019.7～2022.7
31	Mr. Trube Divino Marcellana	フィリピン	(有)沖縄ファーム	2019.7～2022.7
32	Mr. Sabuero Giovanni Ataylar	フィリピン	北日本菅与(株)	2019.8～2021.12
33	Mr. Amparo Mark Lester De Guia	フィリピン	北日本菅与(株)	2019.8～2021.9
34	Mr. Ocumen Joseph Palara	フィリピン	北日本菅与(株)	2019.8～2021.9
35	Mr. Rifqi Hanif	インドネシア	農業生産法人合同会 社渡真利農園	2019.9～2022.9
36	Mr. Gulam Alhattaq	インドネシア	農業生産法人合同会 社渡真利農園	2019.9～2022.9
37	Mr. Rizal Mustika	インドネシア	金城善明	2019.9～2022.9
38	Mr. Adi Suryanto	インドネシア	金城善明	2019.9～2022.9
39	Mr. Danar Ashipa Salsabil	インドネシア	(株)和伊耕産	2019.9～2022.9
40	Mr. Ballacillo Rowel Artienda	フィリピン	山本農園 (山本一 守)	2019.10～2021.9
41	Mr. Susilo Irawan	インドネシア	中村伸次	2019.11～2021.11
42	Mr. Puji Wahyu Utomo	インドネシア	中村伸次	2019.11～2021.11
43	Mr. Yoshiki	インドネシア	さんわ農夢(株)	2019.11～2022.11
44	Mr. Samsul Gay	インドネシア	さんわ農夢(株)	2019.11～2022.11
45	Mr. Caampued Julie Nunez	フィリピン	石川拓	2019.11～2022.11

46	Mr. Sumarno	インドネシア	㈱美ら島	2019.12～2021.12
47	Mr. Prayitno	インドネシア	㈱美ら島	2019.12～2021.12
48	Mr. Irsadul Ngibat	インドネシア	中村伸次	2019.12～2022.12
49	Mr. Madoginog Roy Amorte	フィリピン	上瀧和敏	2020.1～2021.6
50	Mr. Uus Usrofil	インドネシア	㈱和伊耕産	2020.1～2022.5
51	Ms. Febri Rahmawati	インドネシア	㈱さぬき新栄	2020.3～2023.3
52	Ms. Susi Eriyani	インドネシア	㈱さぬき新栄	2020.3～2023.3
53	Mr. Seares Reymond Nino	フィリピン	北日本菅与㈱	2020.12～2022.12
54	Ms. Hana Oktaviana	インドネシア	㈱福井園芸	2020.12～2023.12
55	Ms. Maryani	インドネシア	㈱福井園芸	2021.1～2024.1
56	Mr. Tarrazona Jomaver Telebrico	フィリピン	大城 典一	2020.12～2023.12
57	Mr. Claridad Jhon Ray Relota	フィリピン	沖山 聖	2020.12～2023.12
58	Mr. Paborada Noel Jr. Bulanon	フィリピン	金川均	2020.12～2022.12
59	Mr. Requiron Steniel Cabayao	フィリピン	金川均	2020.12～2022.12
60	Mr. Reyes Marlo Jose	フィリピン	石川拓	2022.3～2025.3
耕種農業(果樹) 5名				
61	Mr. Heri	インドネシア	小豆島ヘルシーランド㈱	2018.9～2023.11
62	Mr. Muhamad Miladi Aminyoga	インドネシア	小豆島ヘルシーランド㈱	2018.9～2023.11
63	Mr. Syafii	インドネシア	小豆島ヘルシーランド㈱	2018.9～2021.11
64	Mr. Luong Van Kiep	ベトナム	小豆島ヘルシーランド㈱	2020.11～2022.11
65	Ms. Nguyen Thi Ngoc Mao	ベトナム	小豆島ヘルシーランド㈱	2020.11～2022.11
畜産農業(養鶏) 5名				
66	Mr. Ursula Carlo Castaneda	フィリピン	㈱ナカ イタマコ	2019.3～2022.3
67	Mr. Telebrico Gelo Barcelo	フィリピン	㈱ナカ イタマコ	2020.2～2023.2
68	Mr. Susarno Jhobet Los Banes	フィリピン	㈱ナカ イタマコ	2020.10～2022.11
69	Mr. Tanacio Frodan Ablaza	フィリピン	㈱ナカ イタマコ	2020.10～2022.11
70	Mr. Astrande Arman Tamo	フィリピン	㈱ナカ イタマコ	2020.12～2022.12
畜産農業(養豚) 37名				
71	Mr. Bendiola Jamiel Carlos	フィリピン	㈱菅与	2017.6～2022.7
72	Mr. Valeros Dexel Pilarta	フィリピン	㈱菅与	2017.6～2022.7
73	Mr. Brub Dexter Nartatez	フィリピン	㈱北海道日高牧場	2017.9～2022.10
74	Mr. Zaw Zaw Win	ミャンマー	トヨタファーム	2017.12～2022.3
75	Mr. Than Zaw	ミャンマー	トヨタファーム	2017.12～2022.3
76	Mr. Aquino Ariel Vasquez	フィリピン	㈱日向養豚	2018.5～2023.7
77	Mr. Balicao Ernie Rodavia	フィリピン	㈱菅与	2018.8～2023.10
78	Mr. Billedo Lorenzo Sanidad	フィリピン	㈱菅与	2018.8～2021.7
79	Mr. Gavanes Januaris Sotelo	フィリピン	㈱北海道日高牧場	2018.9～2023.10
80	Mr. Barcena Gerri Rejoso	フィリピン	㈱北海道日高牧場	2018.9～2023.10
81	Mr. Khun Maung Shan	ミャンマー	トヨタファーム	2018.12～2022.5
82	Mr. Myo Min Than	ミャンマー	トヨタファーム	2018.12～2022.5
83	Mr. Claro Daryll Baruela	フィリピン	㈱菅与	2019.6～2022.6
84	Mr. Guinaban Ruben Gayban	フィリピン	㈱菅与	2019.6～2022.6
85	Mr. Bob Romel Eduardo	フィリピン	㈱菅与	2019.6～2022.6
86	Mr. Dion Kevin Lloyd Gallardo	フィリピン	㈱日向養豚	2019.8～2022.8
87	Mr. Ayco Roland Bersalona	フィリピン	㈱日向養豚	2019.8～2022.8
88	Mr. Flores Ronnel Cortez	フィリピン	㈱菅与	2019.8～2022.8
89	Mr. Talingdan Narciso Balucas	フィリピン	㈱吉田畜産	2019.8～2021.12
90	Mr. Longenos Freddie Juan	フィリピン	㈱菅与	2019.8～2022.1
91	Mr. Magala Arnel Tan	フィリピン	㈱菅与	2019.8～2022.1
92	Mr. Buhian James Albos	フィリピン	㈱菅与	2019.8～2022.1
93	Mr. Baldemor Racie Jay Alejandro	フィリピン	㈱吉田畜産	2019.9～2022.9
94	Mr. Tadeo Jhon Jovi Cada	フィリピン	㈱菅与	2020.1～2022.1
95	Mr. Echipare Cristopher Rombawa	フィリピン	㈱菅与	2020.1～2022.1
96	Mr. Dondonan Salvador Jr. Banaga	フィリピン	㈱北海道日高牧場	2020.1～2023.1
97	Mr. Barcena Jhonford Lapena	フィリピン	㈱北海道日高牧場	2020.1～2023.1

98	Mr. Soe Paing	ミャンマー	トヨタファーム	2020.2～2023.2
99	Mr. Aung Than Lin	ミャンマー	トヨタファーム	2020.2～2023.2
100	Mr. Trinidad John Patrick Algarne	フィリピン	㈱北海道日高牧場	2020.12～2022.12
101	Mr. Barreyro Adrian Hunter Millamina	フィリピン	(有)みずの	2022.3～2025.3
102	Mr. Barreras Raul Jr. Ballesta	フィリピン	(有)みずの	2022.3～2025.3
103	Mr. Manso Kim Julius Buagas	フィリピン	㈱菅与	2022.3～2025.3
104	Mr. Delos Santos Dante Jimenez	フィリピン	㈱菅与	2022.3～2025.3
105	Mr. Bob Roel Eduardo	フィリピン	㈱菅与	2022.3～2025.3
106	Mr. Ardanuel Patrick Jay Valdez	フィリピン	㈱菅与	2022.3～2024.3
107	Mr. Manahan Roberto Bartolome	フィリピン	(有)日向養豚	2022.3～2024.3
畜産農業(酪農) 6名				
108	Ms. Zabanal Sherayne Caes	フィリピン	(有)アイ・アイ・ティ	2016.9～2022.1
109	Ms. Pesa Angelee Vargas	フィリピン	㈱MOO MOO	2019.7～2022.7
110	Ms. Pascual Mariel Hipolito	フィリピン	㈱MOO MOO	2019.7～2022.7
111	Ms. D Susette Semuil	マレーシア	(有)小池牧場	2020.11～2022.11
112	Mr. Barbero Ferick Piscien	フィリピン	岡牧場	2020.1～2022.1
113	Mr. Lahagan Lee Ben Gumulom	フィリピン	岡栄治	2022.3～2025.3

【実習科目及び国別技能実習生数】

実習科目 \ 国別	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	ベトナム	合計
耕種農業(施設園芸)				2		2
耕種農業(畑作・野菜)	30			28		58
耕種農業(果樹)	3				2	5
畜産農業(養鶏)				5		5
畜産農業(養豚)			6	31		37
畜産農業(酪農)		1		5		6
合計	33	1	6	71	2	113

② 工業及び介護技能

No	氏名	国名	委託先名	期間
機械保全 3名				
1	Mr. Marmeto Neil James Barbosa	フィリピン	豊田汽缶㈱	2019.3～2024.5
2	Mr. Singuelas Eric John Fortuno	フィリピン	豊田汽缶㈱	2019.3～2024.5
3	Mr. Marmeto Nazir Jason Barbosa	フィリピン	豊田汽缶㈱	2019.10～2021.10
建設機械施工 10名				
4	Mr. Muhamad Iqbal Bin Farai	マレーシア	ヤスキ建設㈱	2018.12～2021.12
5	Mr. Pramudya Eka Syachriar	インドネシア	(有)秋重建設	2019.7～2022.7
6	Mr. Pendik Jatmiko	インドネシア	(有)秋重建設	2019.7～2022.7
7	Mr. Sadi	インドネシア	(有)中野建設	2019.7～2022.7
8	Mr. Isam Fauzi	インドネシア	(有)中野建設	2019.7～2022.7
9	Mr. Mohamad Helmy Bin Masran	マレーシア	㈱フィールト・サービス	2019.10～2022.10
10	Mr. Sheikh Denial Bin Sh Ishak	マレーシア	㈱フィールト・サービス	2019.10～2022.10
11	Mr. Muhammad Annuar Bin Mohd Sapuan	マレーシア	㈱フィールト・サービス	2019.10～2022.10

12	Mr. Mohamad Faizal Azlizam Bin Abdul Talib	マレーシア	ヤスキ建設㈱	2019.12～2022.4
13	Mr. Muhammad Amirul Hakim Bin Isha	マレーシア	ヤスキ建設㈱	2020.2～2023.2
塗装 7名				
14	Mr. Trube Joemar Ocumen	フィリピン	㈱鈴木サービス工場	2016.9～2021.11
15	Mr. Muhammad Redzuan Bin Burhan	マレーシア	㈱ヤキザリ自動車販売	2017.4～2022.6
16	Mr. Tesoro Keith Angelu Avero	フィリピン	㈱山陰オアシス	2017.9～2022.9
17	Mr. Luna Benjie Moring	フィリピン	㈱浜名ワークス	2019.4～2024.5
18	Mr. Flores Angelo Abit	フィリピン	㈱浜名ワークス	2019.4～2024.5
19	Mr. Ocumen Michael Palara	フィリピン	㈱鈴木サービス工場	2019.7～2022.7
20	Mr. Macaya Jan Rafael Salhay	フィリピン	㈱山陰オアシス	2019.9～2021.10
冷凍空調和機器施工 6名				
21	Mr. Muhammad Ridzuan Bin Jaafar	マレーシア	(有)清明エンジニアリング*	2019.2～2022.2
22	Mr. Muhammad Haiqal Bin Mohd Yunus	マレーシア	(有)清明エンジニアリング*	2019.2～2022.2
23	Mr. Nik Muhammad Fauzan Naim Bin Nor Azan	マレーシア	㈱掛川空調サービス	2019.9～2022.9
24	Mr. Mohd Aiman Bin Mohamad Adam	マレーシア	㈱掛川空調サービス	2019.9～2022.3
25	Mr. Muhammad Nazimmuddin Bin Md Nazir	マレーシア	(有)清明エンジニアリング*	2020.11～2023.11
26	Mr. Muhammad Amirul Idham Bin Abd Latif	マレーシア	(有)清明エンジニアリング*	2020.11～2023.11
溶接 10名				
27	Mr. Bermudez Reymund Cuerdo	フィリピン	㈱マイテック	2018.1～2023.1
28	Mr. Lozada Jake Bacuna	フィリピン	㈱マイテック	2018.8～2023.10
29	Mr. Samia Arbnel Aguelera	フィリピン	㈱浜名ワークス	2019.4～2024.5
30	Mr. Clemente Ian Jayo Noceja	フィリピン	㈱浜名ワークス	2019.4～2024.5
31	Mr. Cuizon Reynaldo Jr. Yangyang	フィリピン	㈱マイテック	2019.8～2022.1
32	Mr. Menor Rudner Laurente	フィリピン	㈱マイテック	2019.11～2022.11
33	Mr. Librando Rey Alde	フィリピン	㈱マイテック	2019.11～2022.11
34	Mr. Dacumos Reychon Villegas	フィリピン	㈱マイテック	2020.12～2022.12
35	Mr. Fernandez Aljun Java	フィリピン	㈱シエテクノス	2022.3～2025.3
36	Mr. Salbibia Johnnel Pabale	フィリピン	㈱シエテクノス	2022.3～2025.3
鉄筋施工 20名				
37	Mr. Callena Nomer Cacho	フィリピン	(有)明星工業	2016.10～2021.11
38	Mr. Domingo Samuel Jr. Tadeo	フィリピン	(有)明星工業	2016.10～2021.11
39	Mr. Balbuena Allain Joyle Andia	フィリピン	㈱ノセブレコン	2016.12～2022.4
40	Mr. Bringas Michael Senrick Barila	フィリピン	㈱ノセブレコン	2016.12～2022.4
41	Mr. Entero Jayson Molina	フィリピン	(有)明星工業	2017.10～2022.11
42	Mr. Santiago Reynel Bio	フィリピン	(有)明星工業	2017.10～2022.11
43	Mr. Barcena Darren Borja	フィリピン	㈱ノセブレコン	2017.12～2022.12
44	Mr. Bodona Diomar Rayan Rafael	フィリピン	㈱ノセブレコン	2017.12～2022.12
45	Mr. Mangma Reymark Walohan	フィリピン	㈱ノセブレコン	2017.12～2022.12
46	Mr. Talingdan Jerwin Baisa	フィリピン	㈱ノセブレコン	2019.1～2024.4
47	Mr. Babida Jimar Berona	フィリピン	㈱ノセブレコン	2019.1～2024.4
48	Mr. Garcia Dickson Sylvania	フィリピン	㈱ノセブレコン	2019.1～2024.4
49	Mr. Ginete Jason Rey Dolloso	フィリピン	㈱ノセブレコン	2019.9～2022.1
50	Mr. Dupaan Andrew Romero	フィリピン	㈱ノセブレコン	2019.9～2022.1
51	Mr. Bacarisa Jeffrey Iverson Beng-Ad	フィリピン	(有)明星工業	2019.11～2022.11
52	Mr. Garcia Jhondel Garcia	フィリピン	(有)明星工業	2019.11～2022.11
53	Mr. Fernandez Florencio Jr. Jamaybay	フィリピン	(有)明星工業	2019.11～2021.11
54	Mr. Benigay Bryan Pioquinto	フィリピン	㈱ノセブレコン	2022.3～2025.3
55	Mr. Quirogo Jackson Lanutan	フィリピン	㈱ノセブレコン	2022.3～2025.3
56	Mr. Ursula Ralph Anthony Caseria	フィリピン	㈱ノセブレコン	2022.3～2025.3
配管 2名				
57	Mr. Muhammad Asyraaf Hamizan Bin Ahmad Zawawi	マレーシア	(有)フジ設備	2020.11～2023.11
58	Mr. Wan Mohammad Imran Fahmi Bin Wan Nor Irman	マレーシア	(有)フジ設備	2020.11～2023.11
鋳造 6名				

59	Mr. Tan Geronimo Egana	フィリピン	白龍産業㈱	2018.9～2021.10
60	Mr. Revilla John Paulo Garganta	フィリピン	白龍産業㈱	2018.9～2021.10
61	Mr. Paulino Karl Cruz	フィリピン	白龍産業㈱	2018.9～2021.10
62	Mr. Gonzales Alvin Abrigo	フィリピン	白龍産業㈱	2019.10～2022.10
63	Mr. Evangelista Dexter Ortalla	フィリピン	白龍産業㈱	2019.10～2022.10
64	Mr. Cerezo Reden Macasaet	フィリピン	白龍産業㈱	2019.10～2022.10
型枠施工 2名				
65	Mr. Wan Muhammad Danial Bin Wan Huzainizam	マレーシア	三登建設㈱	2018.9～2021.9
66	Mr. Muhammad Arieff Aizuddin Bin Mahrol	マレーシア	三登建設㈱	2019.9～2022.9
電子機器組み立て 1名				
67	Mr. Muhammad Syukri Bin Hashim	マレーシア	㈱正興電機製作所	2018.9～2021.9
表装 1名				
68	Mr. Muhammad Zaimul Amin Bin Mohammad Zaim	マレーシア	(有)大地企画	2016.10～2021.11
建具製作 8名				
69	Mr. Arto Deniyance Botau	インドネシア	㈱オーカマ	2017.10～2023.1
70	Mr. Lathif Aminudin	インドネシア	㈱オーカマ	2017.10～2022.12
71	Mr. Wahid Husen Toyo	インドネシア	㈱オーカマ	2017.10～2023.1
72	Mr. Hasan Mukadar	インドネシア	㈱オーカマ	2017.10～2023.1
73	Mr. Angriawan Deny Alfiantoro	インドネシア	㈱オーカマ	2019.3～2024.5
74	Mr. Fahrul	インドネシア	㈱オーカマ	2019.3～2024.5
75	Mr. Lewi Gulid Sambonu	インドネシア	㈱オーカマ	2019.3～2024.5
76	Mr. Muhammad Khaidir Muhammad Rasyid	インドネシア	㈱オーカマ	2019.3～2024.5
自動車整備 18名				
77	Mr. Ahmad Khushairi Bin Zainuddin	マレーシア	浅丘自動車整備㈱	2018.4～2021.4
78	Mr. Muhammad Anwar Bin Abd Halim	マレーシア	滋賀ダイハツ販売㈱	2018.4～2023.4
79	Mr. Mohammed Dzul Amni Bin Zulkefli	マレーシア	愛知ダグイッツ㈱	2018.4～2021.4
80	Mr. Muhammad Faris Bin Feshol	マレーシア	愛知ダグイッツ㈱	2018.4～2021.4
81	Mr. Mohd Arif Fahmi Bin Azha	マレーシア	(有)ワイルドゲース	2018.12～2021.12
82	Mr. Mohd Hafizi Bin Che Mohd Noor	マレーシア	愛知ダグイッツ㈱	2019.5～2022.5
83	Mr. Muhammad Farihin Bin Sazali	マレーシア	愛知ダグイッツ㈱	2019.5～2022.5
84	Mr. Sotto Alexander Arquio	フィリピン	㈱タイシ重機サービス	2019.9～2022.9
85	Mr. Fernandez Glizaldren Nograles	フィリピン	㈱タイシ重機サービス	2019.9～2022.9
86	Mr. Mohamad Ariff Bin Mohamed Roseli	マレーシア	埼玉ダグイッツ㈱	2020.1～2023.1
87	Mr. Wan Muhammad Izzat Arshad Bin Zakariah	マレーシア	埼玉ダグイッツ㈱	2020.1～2023.1
88	Mr. Ahmad Syakir Fahmi Bin Mohd Zaki	マレーシア	滋賀ダグイッツ販売㈱	2020.1～2023.1
89	Mr. Mohd Mazri Bin Mohd Khir Johari	マレーシア	滋賀ダグイッツ販売㈱	2020.1～2023.1
90	Mr. Muhammad Hakimi Bin Kamardin	マレーシア	滋賀ダグイッツ販売㈱	2020.1～2023.1
91	Mr. Syazwan Asyraf Bin Sharip	マレーシア	滋賀ダグイッツ販売㈱	2020.1～2023.1
92	Mr. Muhammad Zaini Bin Hashim	マレーシア	(有)ワイルドゲース	2020.2～2023.2
93	Mr. Mohamad Farhan Bin Nasarudin	マレーシア	秋田ダグイッツ販売㈱	2020.11～2023.11
94	Mr. Muhammad Fazalie Bin Namberom	マレーシア	秋田ダグイッツ販売㈱	2020.11～2023.11
工業包装 11名				
95	Ms. Tuguinay Helen Marie Caridad Alivalera	フィリピン	ネスタラッピイ㈱	2018.9～2021.9
96	Ms. Factor Maria Divina Rano	フィリピン	ネスタラッピイ㈱	2018.9～2022.1
97	Ms. Tuanquin Marydel Dexie Pilor	フィリピン	ネスタラッピイ㈱	2018.9～2022.1
98	Ms. Barreyro Hermie Lumaoig	フィリピン	ネスタラッピイ㈱	2020.1～2023.1
99	Ms. Respicio Kathleen Mae Arias	フィリピン	ネスタラッピイ㈱	2020.1～2023.1
100	Ms. Blaza Elizabeth Benauro	フィリピン	ネスタラッピイ㈱	2020.1～2023.1
101	Ms. Besas Maria Jessica Testado	フィリピン	ネスタラッピイ㈱	2020.1～2023.1
102	Ms. Batalon Amelia Bo	フィリピン	ネスタラッピイ㈱	2020.1～2023.1
103	Ms. Vicente Milagros Gandeza	フィリピン	ネスタラッピイ㈱	2020.1～2023.1
104	Ms. Pajarillo Brenda Eugenio	フィリピン	ネスタラッピイ㈱	2020.1～2023.1
105	Ms. Banez Jenniefer Teneza	フィリピン	ネスタラッピイ㈱	2020.1～2023.1
ロータリー式さく井工事 2名				
106	Mr. Repollo Ryan James	フィリピン	㈱常総興業	2019.1～2022.1

107	Mr. Saturno Walter Sablay	フィリピン	(株)常総興業	2019.1～2022.1
射出成型 3名				
108	Mr. Arquion Allen Kris Fernandez	フィリピン	工業化成(株)鈴鹿工場	2019.2～2024.4
109	Mr. Magsanay Mark Anthony Marabe	フィリピン	工業化成(株)鈴鹿工場	2019.2～2024.4
110	Mr. Revilla John Carlo Garganta	フィリピン	工業化成(株)鈴鹿工場	2019.2～2024.4
ビルクリーニング 4名				
111	Ms. Nguyen Ngoc Ha	ベトナム	(株)朱禧	2019.2～2021.4
112	Mr. Nguyen Van Quan	ベトナム	(株)朱禧	2019.2～2021.10
113	Mr. Nguyen Ngoc Son	ベトナム	(株)朱禧	2019.2～2021.10
114	Ms. Phan Thi Ngoc Thuy	ベトナム	(株)朱禧	2019.2～2022.3
鉄工 2名				
115	Mr. Alif Dityas Pangestu	インドネシア	(株)鶴田工業	2020.3～2023.3
116	Mr. Abdul Rajak Ipaenin	インドネシア	(株)鶴田工業	2020.3～2023.3
防水施工 1名				
117	Mr. Paat Junel Babida	フィリピン	(株)アムファ技研	2020.2～2023.2
牛豚食肉処理加工業 2名				
118	Ms. Sibuyan Easther Cindy Dizon	フィリピン	中王食肉(株)	2019.10～2022.10
119	Ms. Francisco Julie Ann Penafiel	フィリピン	中王食肉(株)	2019.10～2022.10
介護 24名				
120	Ms. Suarnaba Kellie Marie Alojado	フィリピン	社会福祉法人 愛光園	2019.12～2022.12
121	Mr. Paredes Ranju Anjao	フィリピン	社会福祉法人 愛光園	2019.12～2022.12
122	Ms. Aye Myat Mon	ミャンマー	(株)やさしい手	2019.12～2022.12
123	Ms. Hnin Hnin Aung	ミャンマー	(株)やさしい手	2019.12～2022.12
124	Ms. Naw May Tar Blute Htoo	ミャンマー	(株)やさしい手	2019.12～2022.12
125	Ms. Htet Yi Win	ミャンマー	(株)やさしい手	2019.12～2022.12
126	Ms. Thet Htar Swe	ミャンマー	(株)やさしい手	2019.12～2022.12
127	Ms. Olvinada Aubrey Belarmino	フィリピン	医療法人社団湖仁会	2020.1～2023.1
128	Ms. Sabolbora Erika Espanueva	フィリピン	医療法人社団実幸会	2020.1～2023.1
129	Ms. Garcia Rho Ann Toding	フィリピン	医療法人社団実幸会	2020.1～2023.1
130	Ms. Ocampo Dorathy Mesicula	フィリピン	生活介護サピス(株)	2020.1～2023.1
131	Ms. Guzman Jenny Denosta	フィリピン	生活介護サピス(株)	2020.1～2023.1
132	Ms. Aquilesca Erica Medel	フィリピン	生活介護サピス(株)	2020.1～2023.1
133	Ms. Balonzo Paula Jo Nunez	フィリピン	生活介護サピス(株)	2020.1～2023.1
134	Ms. Daulong Frances Aubrey Lupo	フィリピン	生活介護サピス(株)	2020.1～2023.1
135	Mr. Agio Julymar Fortaliza	フィリピン	生活介護サピス(株)	2020.1～2023.1
136	Ms. Nguyen Thi Thuy Quyen	ベトナム	社会福祉法人興風会	2020.10～2023.10
137	Ms. Le Thi Duyen	ベトナム	社会福祉法人興風会	2020.10～2023.10
138	Ms. Lang Thi Phuong Dung	ベトナム	社会福祉法人興風会	2020.10～2023.10
139	Ms. Tran Thi My Hue	ベトナム	社会福祉法人興風会	2020.10～2023.10
140	Ms. Huynh Thi Ngoc Thuy	ベトナム	社会福祉法人興風会	2020.10～2023.10
141	Ms. Danh Thi Thu Mai	ベトナム	社会福祉法人興風会	2020.10～2023.10
142	Ms. Villanueva Joyce Pesca	フィリピン	(有)山本	2020.12～2023.12
143	Ms. Sombong Ma Eden Eusebio	フィリピン	(有)山本	2020.12～2023.12
とび 2名				
144	Mr. Mendoza Jomar Rico	フィリピン	(株)小林造園	2022.3～2025.3
145	Mr. Revilla John Vergel Garganta	フィリピン	(株)小林造園	2022.3～2025.3

【実習科目及び国別技能実習生数】

実習科目 \ 国 別	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	ベトナム	合計
機械保全				3		3
建設機械施工	4	6				10
塗装		1		6		7
冷凍空気調和機器施工		6				6
溶接				10		10
鉄筋施工				20		20
配管		2				2
鋳造				6		6
型枠施工		2				2
電子機器組み立て		1				1
表装		1				1
建具製作	8					8
自動車整備		16		2		18
工業包装				11		11
ロータリー式さく井工事				2		2
射出成型				3		3
ビルクリーニング					4	4
鉄工	2					2
防水施工				1		1
牛豚処理加工業				2		2
介護			5	13	6	24
とび				2		2
合計	14	35	5	81	10	145

3) 日本青年育成事業

当法人は長年、人材育成を通じて国づくりの基盤である開発途上国における農村地域の発展に寄与してきている。しかし近年わが国の産業構造の変化に伴い、農業分野での若手人材が大きく減少しており、国際協力の分野で活躍が期待できる人材の確保が著しく困難な状況となっている。

そうしたなか、将来この分野での貢献を目指そうとするわが国の数少ない若者たちの育成は欠かすことのできない喫緊の課題である。

本事業では、国内外で推進する国際協力活動及び関連業務（活動）を通じて理解を深め、将来にわたって当法人を含むわが国 NGO、さらには広く国際貢献を担う人材の養成を行った。本年度は4月～9月の半年にわたり2名の実施となった。

研修場所は東京本部をはじめ国内3センターにおいてコロナ禍により研修延長となった海外研修生と寝食を共にしながら、研修生の出身国の実情に触れたり、実際に現場の最先端で取り組む職員と活動を共にしながら、人材育成の難しさと重要性、また開発途上国が抱える問題等についての理解向上を図った。その結果、山崎敦也氏が10月より新たな職員として四国研修センターでの活動に加わった。

1) 対象者：2名

2) 研修期間：令和3年4月1日～令和3年9月30日

3) 名簿

氏名	性別	研修場所
山崎 敦也	男	東京本部
岡田 香織	女	西日本研修センター
		中部研修センター
		四国研修センター

総括

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、開催を予定していた行事やイベント出展等の自粛で延期や中止となり、当初の事業計画にあった啓発普及活動が実施できず大幅な変更が余儀なくされた。特に海外視察・ボランティア派遣はすべて中止となった。

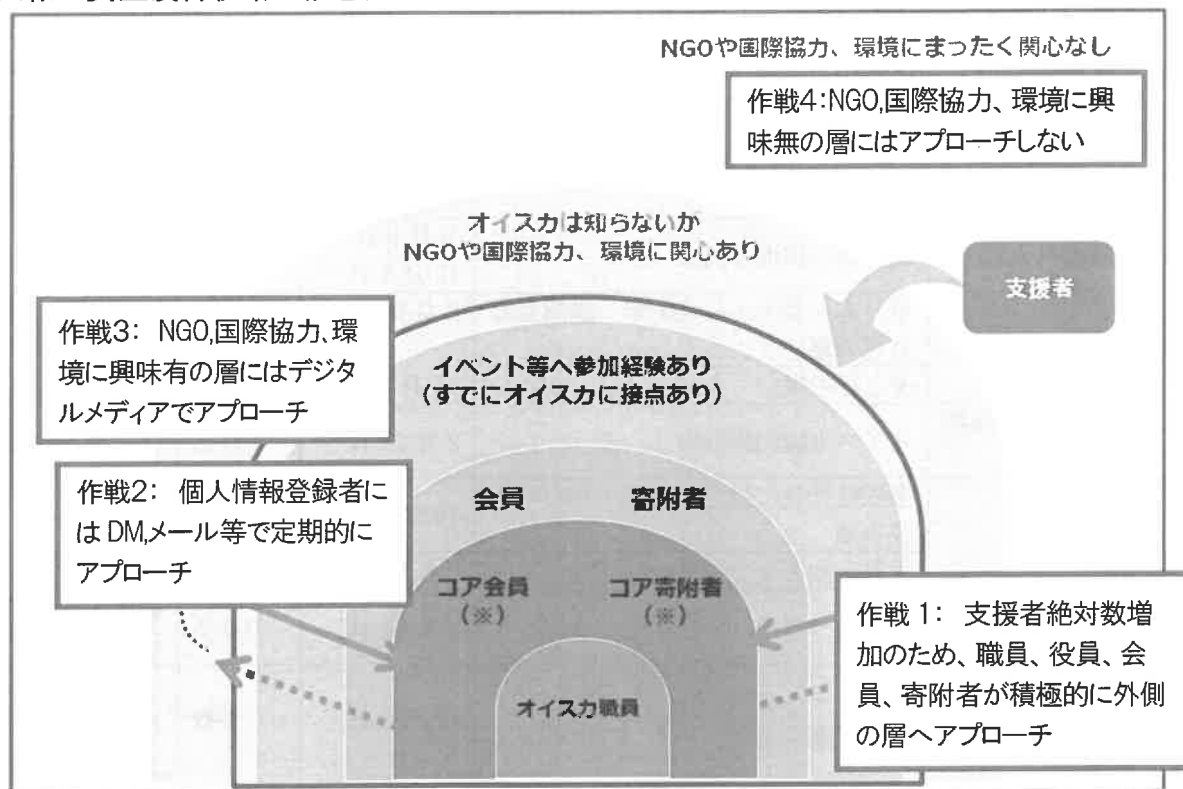
しかし国内においては、愛知県内に2の支援組織（活動推進協議会）が設立され、13の支部と43の支援組織（活動推進協議会）となった。国内での啓発普及活動はオンライン等での取り組みもおこなっているが、個人の賛助会員の年齢層が全国的に高い傾向があり今後の活用については新たな施策が求められる。またコロナ禍においては新規会員の入会のきっかけとなる行事やイベントなどの開催ができず伸び悩みと継続していただけない既存会員の方々が多数のため、当初目標としていた賛助会員数は達成できなかった。そのため啓発普及活動の強化を図るため、具体的にホームページの全面リニューアルやSNS等の情報発信を積極的におこなった。さらに本部総務部広報室を啓発普及部に移し、GSM (Global Sustainability Mission)として、総合的広報計画の戦略立案、実施運営等を行う体制を整備した。従来の各種会合等に加えデジタルメディア関連を推進し、コロナ禍の国際協力活動を充実した形で発信し、引き続き重要な課題として取り組み努力していく必要がある。

日本国内での森林保全活動においても、昨年に続き森林整備の体験活動や自然体験などの多くが中止となり、必要な作業については、地元林業者や関係者の協力を得ながらの実施となったが、秋ころには参加人数の縮小など対策をして一部の活動が再開され、少しではあったがボランティアによる活動も実施できた。また持続可能な開発目標「SDGs」への取組の一つとしても推進しているオイスカの活動地の間伐材を利用した木製のSDGsバッジは、会員企業・団体を中心に昨年以上に多数の導入をいただいた。併せて、森林資源の活用や地域の活性化の取り組みとしてやまなし水源地ブランド推進協議会との協働で実施している枝葉を使った「香り」の事業は、富士山の森づくりから始まり、現在3地域に事業が広がっている。昨年に引き続きコロナ禍の活動として、「森の香り」のアロマアルコールスプレーを関係地域のソーシャルワーカーに届けるプロジェクトも企業の社会貢献活動として実施された他、同協議会と実施する木育おもちゃの開発や都市部地域での新たな木育推進事業の立ち上げなど、コロナ禍でも森林保全や地域の活性化につながる新しい事業を推進した。一方、コロナの収束の見通しが見えない今、持続可能な活動とするためには、現地での活動の他、森林の循環に寄与する様々な活動を提案していかなければならない。

<広報にかかわる事業戦略 ～理念体系の見直し～>

創立60周年を迎え、創設者から薫陶を受けた職員の多くが現場から退き、創設者が抱いていたオイスカに込めた期待やその理念がスタッフ全員に浸透しにくい状況であった。また、「共感」が重要視され、支援につながる時代にあり、オイスカの理念をわかりやすく表現し、発信することが重要となってきた。そのため、60周年と10ヵ年計画策定を機に、ビジョン、ミッション等の理念体系を見直し、オイスカの目指す方向を内外に発信した。

<広報・資金獲得戦略 概念図>



1. 国内啓発普及活動

全国各地で各種講演会・セミナー等の開催、海外ボランティア派遣や視察など体験活動を通じて多くの市民、企業、自治体に関われるよう参加型の啓発普及活動を当初は計画したが、コロナの影響を受け多くの活動において縮小、延期、中止を余儀なくされた。

1) 講演会・セミナー等の開催

組織名	事業名	開催日	参加者数	場所
本部	海岸林再生プロジェクト 活動報告会・講演会	年 11 回	1,392 名	4 都県
本部	海岸林再生プロジェクト 現地視察団受け入れ	3 回	14 名	宮城県名取市
北海道支部	オイスカ創立 60 周年記念 第 20 回オイスカ北海道「子供の森」 計画チャリティーコンサート	11 月 29 日	242 名	京王プラザホテル札幌
北海道支部	「Learning by Giving」社会貢献教育プログラム	7 月 7 日 ~ 8 月 5 日	40 名	札幌市立開成中等教育学校

北海道支部	健康教育「いのちを考える学習・生と性を考えるカフェテリア」	10月13日	40名	札幌市立開成中等教育学校
首都圏支部	国際協力推進懇談会	7月、10月、12月	各17名	東京都内
富山県支部	魚津商工会議所 水曜会の卓話	4月6日	60名	新川文化ホール (富山県魚津市)
富山県支部	活動報告会	5月27日	55名	富山県民会館
静岡県支部	西部地区推進委員会	9月9日 12月3日	10名 12名	浜松市内
愛知県支部	東日本大震災から10年 講演会&音楽の集い	6月9日	60名	三重県四日市市
	愛と絆の集い	11月28日	120名	末野原交流館ホール
中部日本後援会	オイスカ活動報告会	2月24日	50名	オンライン開催
四国支部	多様性社会に対応する豊かな心の育成事業	10月9日	多数	高松市内
	世界を知る～トークショー	2月12日	20名	丸亀市 (マルタス)
関西支部	関西のつどい	9月18日	100名	国民會館武藤記念ホール
西日本支部 熊本県推進協議会	熊本・モンゴルプロジェクト「中間報告会」	12月2日	多数	オンライン開催



オイスカ支援連携サミット
「国際協力のカタチを探る。」(愛知県支部)

2) インターネット・SNS 等での情報配信、普及資料の作成・配布

1. 月刊 「OISCA」 発行

年間 10 回発行（毎月約 6100 部に加え 8・9 月の合併号は 15,000 部）し、会員のほか、公官庁や各種団体などに送付した。

2. 各種団体のサイトで情報発信

JANIC、JICA、ACTIVO、地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）などの情報提供サイトでイベント・ボランティア情報の告知をおこなった。

3. メールマガジン・SNS 等での情報発信

月刊誌で取り上げた各国の活動状況や国内での啓発普及活動を最新情報として配信したほか、全国で開催するイベント・ボランティア情報の告知を積極的におこなった。また毎月第 2・4 金曜日に各種募集情報を中心とした最新情報を掲載したメールマガジンを配信した。

内容	2021 年度実績	2022 年度目標
支援者数	7,919 件 (DM) 4,625 件 (SNS)	10,000 件 (DM) 5,800 件 (SNS)

4. マスメディア等への露出

	2021 年度実績	2022 年度目標
露出回数	30 回	30 回以上

*2021 年度実績例：

西日本 TC：コロナ禍での TC 農場運営、県立早良高校との協定締結（西日本新聞）
 中部 TC：4 研修センターサミット（中日新聞・朝日新聞・矢作新報・日本農業新聞）
 海岸林：「松がつなぐあした」書評、石碑建立、本数調整伐着手
 （河北新報・時事通信・電気新聞・ミヤギテレビ・東北放送・ラジオ関西など 22 回）

5. デジタルツールを活用した支援者の外の層へアクセスし、支援者へ誘導

（ホームページ、YouTube、Facebook、Twitter、Instagram）>

① ホームページでの情報発信強化

初めてホームページを訪れた人にも見やすく、わかりやすく、再度、訪れてもらえるサイトを目指し、2022 年 2 月に全面リニューアルした。個人の閲覧を増やすために、モバイル端末にも対応させ、いつでもどこでも簡単にアクセス可能な情報の入れ物が完成した。今後は、入れ物の中身となる情報の充実を図った。

2021 年までの旧 HP では、①アクセスは平日にアクセスが集中、②アクセス手段は PC54%、スマホ 40%、タブレット 4%の通り、法人関係者が平日に閲覧する傾向を示していた。一日平均アクセス 67 回。200 回を超える日は 4 日のみ。月平均アクセス最多は、60 周年行事前の 9 月で 3,609 回。8・10 月は 2,200 件台。

内容	2021 年度実績 (12 月末現在)	2022 年度目標
年間訪問者数	ユーザー24,483 件	ユーザー30,000 件
月平均訪問者数	2,232 件	2,500 件
HP からの入会数	個人 9、法人 2、CFP4	前年度以上
HP からの寄附者数	107 件	150 件

② Twitter

2014 年以降投稿を停止していたが、2021 年 7 月から投稿を再開し、「組織の認知度獲得（潜在支援者含めて）」を目的とし、最新のニュースやイベント、活動情報など今起きていることをリアルタイムに発信した。

内容	2021 年度実績	2022 年度目標
フォロワー数	654	1,000
エンゲージメント率	3~4%	5%

③ Instagram

60 周年行事に向けて開始し、これまでに 67 回投稿。文章がメインの SNS とは違い写真や動画を通じたビジュアル表現によるコミュニケーションを通じ、新たな支援者獲得を目指す。若い世代だけでなく 40 歳~50 歳代のアクセスも多くみられた。

内容	2021 年度実績	2022 年度目標
フォロワー数	359	500
リーチ数	435(1/1~31)	600(1 カ月間)
インタラクション (いいね、保存、コメント)	228(1/1~31)	400(1 カ月間)

④ YouTube チャンネル「OISCA Japan」

Web 活動報告会、講演会などのライブ配信、国内外の活動拠点の現場動画などを定期的に投稿してきた。

内容	2021 年度実績	2022 年度目標
視聴回数	21,566 回	25,000 回
インプレッション&クリック数	2.4%	5.0%
チャンネル登録者数	993	1,500

⑤ Facebook「OISCA」

これまで月平均 7 回更新。支援者とのコミュニケーションツールとしてイベントや活動情報等を投稿し情報発信をした。

内容	2021 年度実績	2022 年度目標
フォロワー数	2,647	2,800
リーチ数		

⑥ オンライン報告会等の実施

	2021 年度実績	2022 年度目標
参加のべ人数	3,928 人	80 人
実施回数	12 回	2 回

今年度は、コロナ禍による会員減少を食い止めるべく、オンラインで平日昼休みに9回開催した。オイスカ活動を身近に感じてもらい、会員継続につなげるため、会員相互の交流、スタッフとのオンライン企画をテスト的に開催し、コロナ禍により活動現場に足を運んでいただくことが困難になっている中、オイスカ活動を支援してくださっている方々に向けて、現場より、現状や今後の展望について、写真や動画等を活用しZoom ウェビナー及び、YouTube ライブで実施した。

第4回（フィリピン）

- 日 時：2021年4月14日 12:00～13:00
- テーマ：「半世紀を迎えたネグロスでの活動と養蚕事業の今」
- 報告者：バゴ研修センター所長 渡辺重美、中川春希、現地スタッフほか

第5回（人材育成事業）

- 日 時：2021年5月19日 14:00～15:00
- テーマ：「コロナ禍・新しい時代への人材育成の取り組み」
- 報告者：西日本研修センター所長 廣瀬兼明、豊田早苗ほか

第6回（インドネシア）

- 日 時：2021年6月24日 12:00～13:00
- テーマ：「インドネシアにおけるパンデミック下のオイスカ活動」
- 報告者：インドネシア駐在代表 中垣 豊、現地スタッフほか

第7回（国内環境保全事業）

- 日 時：2021年7月29日 12:00～13:00
- テーマ：「国内の森づくり「新たな森林の活用」」
- 報告者：国内環境担当課長 長野純子ほか

第8回（技能実習事業）

- 日 時：2021年7月29日 12:00～13:00
- テーマ：「オイスカの技能実習 ～日本の国際協力の新たな展開へ～」
- 報告者：関西研修センター所長 清水利春、中部日本研修センター課長 宗像ジュイエほか

第9回（ミャンマー）

- 日 時：2021年9月21日 12:00～13:00
- テーマ：「ミャンマーの人々へ 未来への希望を！」

■報告者：海外事業部課長 藤井啓介 現地スタッフほか

第10回（サーキュラー・エコノミー）

■日 時：2021年10月29日12：10～13：00

■テーマ：「メルカリ寄付で支援！～オイスカの持続可能な農業の現場レポート～」

■報告者：四国研修センター所長 小野 隆、金澤優香ほか

第11回（冬募金）

■日 時：2021年11月30日12：10～13：00

■テーマ：「寄附からつながる世界課題の解決 ～オイスカ冬募金（前編）～」

■報告者：Giving December 共同事務局長 山田泰久、本部スタッフほか

第12回（冬募金）

■日 時：2021年12月16日12：10～13：00

■テーマ：「寄附からつながる世界課題の解決 ～オイスカ冬募金（後編）～」

■報告者：大阪マラソンチャリティ業務連絡調整担当 河合将生
ウズベキスタン 緑化事業担当 富樫 智ほか

3）体験・交流活動（交流会・イベント出展等）

組織名	事業名	開催日	人数	場 所
茨城県推進協議会	途上国の子ども達に送る楽器 清掃の集い	7月25日	14名	水戸市内
	ヤングボランティア育成研修 事業	10月18日	32名	
	鉾田市楽器贈呈式	2月24日	8名	鉾田市内
首都圏支部	「子供の森」計画支援 チャリティバザー	10月30日	多数	オイスカ本部
首都圏支部	海外支援慰問品協力運動	12月14日	多数	豊洲市場（江東区）
静岡県支部	浜松地域会員交流会	9月9日 12月3日	10名 12名	浜松市内
静岡県支部	南インド総局との文化交流会	2月19日	44名	浜松市内（オンライン）
山梨県支部	サマーフェスティバル&木育 キャラバン	8月11日12日 12月11日12日	多数	岡島百貨店（山梨県甲府市）
岐阜県支部	海外の子どもたちへの文具用 品支援	3月25日	10名	岐阜市立柳津小学校
愛知県支部	オイスカ友の会農業交流会	5月28日	13名	中部日本研修センター
	英語でcooking	7月31日	4名	

愛知県支部	国際協力支援のカタチを探る	8月7日	500名	JA あいち豊田本店ふれあいホール
	チャリティー講演会	10月3日	200名	豊田市福祉センター大ホール
	KASUGAI SDGs フェス	10月16日	300名	ネクシティパレット
関西支部	みんな仲間だ！ フェスティバル	12月12日	40名	クレオ大阪中央館
	ワンワールド・ フェスティバル	2月6日～14日	多数	オンライン開催
広島県支部	中国電力創立70周年記念「森林イベント」へ協力	11月6日	5名	広島県山県郡北広島町 中国電力所有水源かん養林
四国支部	高松市環境活動展	10月21日～27日	多数	高松市民交流プラザ
	かがわ国際フェスタ	10月16日～21日	多数	アイパル香川 (高松市内)
高知県推進協議会	国際ふれあい広場	10月31日	多数	ひろめ市場(高知市)
西日本支部	オイスカ活動パネル展 お野菜即売会	7月12日13日	多数	福岡県庁
西日本支部	We Love チャリティーゴルフコンペ	1月16日	65名	伊都ゴルフ倶楽部



国際青年養成講座(愛知県支部)



オイスカ広島の森づくり活動(広島県支部)



岐阜市立柳津町学校から海外子どもたちへの文具用品支援（岐阜県支部）

4) 各種体験・啓発活動

①森のつみ木広場、木育推進事業

全国の支部・支援組織などを中心に子どもたち(親子)が遊びを通して木に触れる「森のつみ木広場」や国産材の木のおもちゃを使った「木育広場」の開催などを実施する木育推進事業は、今年度もコロナウイルス感染拡大の影響で、昨年度程度の開催に留まった。しかし今年度も一部の小学校からは強い要望があり、会場の分散、消毒や検温、マスクの徹底などの感染防止措置をとり開催をした。

令和3年度は、やまなし水源地ブランド推進協議会、NPO法人木net やまなしなどの協働で開発された国産材の木のおもちゃを、品川区で子育て支援や地域の活性化に取り組む団体に寄贈し、木育の講座などを開催。地域で「木育広場」を複数回開催してもらい多くの親子に木のおもちゃに触れてもらう機会を提供することができた。東京都中野区のイベントや山梨県甲府市からの委託事業として開催された木育キャラバンなどでは、予想以上に多くの参加者が集まり、コロナ禍で子どもたちの自然体験や屋外遊びの機会が減少しているなか、木育への期待は高い。引き続き、木育を通じて都市部での木材の活用や導入のきっかけづくり、併せて人材の育成を通じ、持続可能な森林のサイクルの構築を目指していきたい。

組織名	開催日	開催場所・イベント名 等
本部	寄贈6月 説明会 8月26日	とごゑの会 木育おもちゃセット寄贈、説明会の開催(品川区)
	10月9日	しながわ夢さん橋(品川区)
	11月13日	なかのエコフェア(中野区)
本部 首都圏支部	6月22日	中央幼稚園(中央区)
	11月29日	八成小学校(杉並区)
山梨県支部	8月11日、12日	木育キャラバン(山梨県甲府市)
	12月11日、12日	木育キャラバン(山梨県甲府市) ※山梨県委託事業
愛知県支部	10月6日 11月10日 12月14日	愛知県大口町立柏森保育園

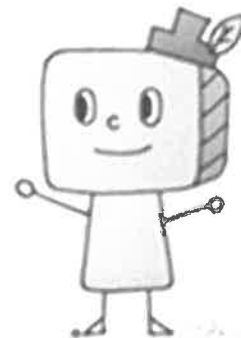
関西支部	10月20日	大阪市立瓜破東小学校（大阪府大阪市）
関西支部	11月25日26日	大阪市立中津小学校（大阪府大阪市）
四国支部	6月29日	四電組合からの積木贈呈式(高松市)



岡島百貨店「山の日」木育キャラバン（山梨県支部）山梨県委託事業



品川区への木育おもちゃ寄贈式



2. 国内環境保全活動

オイスカが進める森林整備活動等は多くの事業者と協働して実施し、植栽、間伐といった地域のニーズに即した森林整備や里山再生活動を行っている。同時に日本の林業を支え、持続可能な社会を目指すために国産木材の利用や森林の活用を促進すると共に、その循環の仕組みづくりに取り組んでいる。

① 企業等との協働による森林保全活動

森林環境譲与税の創設や森林サービス産業、またSDGsの推進など、森林への関心や新たな活用への期待が高まっているなか、企業や自治体との協働により、いち早く人が入り活用できる森林の整備や体験活動の実施を進めてきた。必要な作業は地元林業者や関係者の協力や協働企業の理解の下、おおむね予定通りに実施し、森林の活用に向けた具体的な次のステップへと進めることができた。

今後は更に、企業や自治体との連携により、森林空間を多様な分野で活用を推進することで、新たな森と人のかかわりのきっかけづくりをおこなっていく。また併せてまた企業活動にも森林や国産材活用を提案していくことで、山村地域の活性化とより持続可能な社会の構築を目指していく。

事業名	実施月	活動内容	参加者数	活動場所
富士山の森づくり	通年	獣害防止対策ネット補修、生育調査、鳥類調査 等	89名	山梨県鳴沢村
甲州市・オルビスの森づくり	通年	下刈り、ロープ柵設置、林間ステージ・展望台塗装、案内看板作成・設置、完成記念式典開催 等	27名	山梨県甲州市
ホンダの森づくり（秩父）	8月	下刈り		埼玉県秩父市
ライオン山梨の森づくり	通年	鹿柵設置、植樹、下刈り、間伐、落ち葉堆肥づくり、幼木移植 等	12名	山梨県山梨市
東急ホテルズ グリーンコインの森	通年	間伐、枝打ち、木柵設置、遊歩道整備、耕作放棄地の活用 等	34名	山梨県丹波山村
プロネクサスの森	通年	間伐、枝打ち、集材、搬出 等		山梨県道志村
三菱自動車工業 パジェロの森	8,2月	下刈り、間伐		山梨県早川町

②全国支部組織の環境保全活動

組織名	事業名	開催日	参加者数	場所
宮城県支部	タイ北部ランプーンプロジェクト支援			タイ・ランプーン

	ミャンマー 緑化・環境教育事業支援			ミャンマー マンダレー地区
山梨県支部	富士山の森づくり活動協力	5～11月	多数	山梨県鳴沢村
	森林体験活動	5月26日 6月23日	57名 50名	甲州市・オルビスの森 (山梨県甲州市)
	富士山の森づくり推進協議会 2021年度総会	3月17日	25名	オンライン
	モンゴル植林プロジェクト支援(コロナ禍のため現地ボランティアで実施)	8月8日	20名	モンゴル・ブルガン県
愛知県支部	オイスカの森整備活動	5月29日	17名	愛知県設楽町
	黒松記念植樹	2月21日	11名	みよし市保田が池公園
富山県支部	緑の里山保全森づくり	5月22日 6月6日 7月23日 10月30日	105名	立山町天林地区
関西支部	竹林整備	1月29日	8名	京都府大山崎町
広島県支部	オイスカ広島の森づくり	7月13日	11名	県立もみのき森林公園 (廿日市吉和)
四国支部	竹林整備活動	11月13日 11月18日 11月24日 11月25日 11月26日	6名 5名 5名 5名 5名	香川県綾川町
	山・林・SUN体験活動	11月21日	70名	尾の瀬山 (まんのう町)
四国支部 高知県推進協議会	“四万十よんでんの森植林活動”	11月8日	5名	高知県四万十市
四国支部 愛媛県推進協議会	Mt. LOVE10	10月2日 11月8日 3月13日 3月14日	50名	忽那山(愛媛県)
四国支部 徳島県推進協議会	とくしままちなか花ロード	1月15日	200名	徳島市
広島県支部	オイスカ広島の森づくり	7月13日	11名	廿日市吉和(県立もみのき森林公園)
広島県支部	中国電力創立70周年記念「森林イベント」へ協力	11月6日	多数	広島県山県郡北広島町
西日本支部	グリーンウェイブ朝倉水源の森づくり	3月21日	117名	福岡県朝倉市



Mt. Love 10 (四国支部 愛媛県推進協議会)



富山県立山町天林地区 植樹・子どもたち向け
森林教室(富山県支部)



③ 海外視察・ボランティア派遣

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、海外渡航制限のため実施できず。

3. 東日本大震災復興支援

【 海岸林再生プロジェクト 第2次10ヵ年計画 (2021-2030) 】

2021年にオイスカは創立60周年を迎え、SDGsの趣旨に添い、ECO-DRR（森林など生態系を活用した防災・減災）を念頭に置いた国際的プロジェクトの一端として、積立金（特定費用準備資金）等を活用して事業を継続。

2021年以降続く育林として、数年間は下刈が残り、断続的に続くものは、排水溝修復・増設、ツル切り・除伐、本数調整伐（間伐）、作業道維持管理、生長モニタリング・本数調整伐調査、マツクイムシ被害防止対策、定期巡視、各種啓発活動等。第3次10ヵ年計画（2031-2040）まで育林に関わる計画。

2021年は本数調整伐を実施し、2014年に植栽した10.13haで汀線に平行に2列残して1列伐採する1伐2残の伐り方で16,887本を伐採した。2022年度以降も本数調整伐を継続的に実施する。

○主な活動実績

5月4日	河北新報に書籍「松がつなぐあした」の紹介記事掲載
5月16日	東京都立大学川東教授・森林総研東北支所視察
5月17日	本数調整伐試験地伐採（0.12ha・伐採率4種）
	森林総研土壌根系調査開始
	宮城県県立高校に書籍「松がつなぐあした」74冊寄贈
5月18日	名取・岩沼市境の除伐・つる切り
6月19日	ボランティア受け入れ再開
6月24～28日	東京都立大学川東教授・森林総研東北支所調査開始
7月1日	森林林業白書でプロジェクト紹介（3回目）
7月15日	県防災林協議会幹事会
7月21日	再生の会 石碑除幕式（ミヤテレ、東北放送、河北新報で紹介）
9月9～11日	森林総研土壌根系調査
10月2日	日本海岸林学会・林野庁計20名視察
10月6日	オイスカ創立60周年行事で紹介
10月8日	森林総研研究報告「東日本及び東北地方の海岸防災林・海浜公園の生育基盤として整備された造成土壌の特徴」発表（調査プロット52ヵ所のうち12ヵ所が当プロジェクト）
11月8～12日	森林総研・名古屋大学大学院根系調査
1月17日	本数調整伐開始（時事通信、河北新報、ミヤテレ、ラジオ関西で紹介）

1月21日	林野庁・宮城県庁 30名視察
1月27・28日	日本海岸林学会坂本知己氏視察
3月26日	森林立地学会海岸林シンポジウム「津波にねばり強い海岸林のこれまでとこれから」に登壇

【 11年間（2011-2021）の累計実績 】

- 協定締結面積 **103.05ha**
*内訳：国有林：2.91ha、県有・市有林：96.4ha、内陸防風林共有林等：3.74ha
- 植栽完了面積 **72.46ha**
- 植栽完了本数 **370,198本**
*内訳：マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ・精英樹クロマツ 369,527本、
広葉樹 11種 683本
- 植栽平均活着率 **99.2%**
- 雇用数 **9,033人**（8時間/日人、11年無事故）
- 苗木出荷本数 **403,271本**（うち他市の海岸林に協力 68,288本）
- 8時間従事ボランティア数 **11,921人**（リピート率約5割。11年無事故）
- 視察者数 **3,545人**
- 外国人来訪者 **63カ国・268人**（うちメディア 30カ国）
- 活動報告会・講演会 **270回・43,237人**
- 寄附金募集パンフレット配布数 **29万枚**
- 記録動画自主制作 **15本**
- HPブログ更新 **2,523回更新**（震災から11年、4,038日中）
- 国内メディア紹介 **290回**
- 寄附者数 **2,211人**（うち会員3割）
- 寄附金等総収入 **約8.8億円**（2021年度 寄附額約3千万円）



2014・15年植栽地 約26ha 全景（左：2016年撮影 右：2020年撮影）

5. 国際連携・交流促進

1) 国際会議等の開催

① 環境教育を基盤とした青少年育成に関する国際会議

開催日：令和3年10月28日(木)

場 所：オンライン実施（オイスカ本部を拠点に19か国より参加）

出席者：19カ国40名

内 容：

1. アジア太平洋に推進している「子供の森」計画の青少年を対象とした環境教育、植林活動、及び活動において、コロナ禍の活動の在り方やどの様な相互の協力が出来るか方策を話し合った。
2. コロナ禍の青年育成活動を充実させるため、どのような手法が効果的か検証し、実践で活かすことができるかを検討した。
3. 途上国への青少年活動支援に対して、参加を促すためにどの様な方策が効果的であるか話し合った。

② オイスカ支援連携サミット

1. 概 要：

オイスカは「人材育成事業」を活動の柱とし、国内外の国際協力の最前線で活躍する人材を輩出してきた。しかし国際社会や経済の発展に伴い各国で求められる人材育成も大きく変化している。将来にわたり「オイスカの人材育成事業」はどうかの潮流に則し展開していくか、また目指すのか、新たな方向性や事業展開をはじめ支援の意義を打出し支援者（会員）の拡大につなげていくための議論をおこなった。また2日目は「人材育成を基礎とした日本の国際協力の新たな展開へ」をテーマにシンポジウムを開催し、150名が参加した。なお本サミットには、国内4研修センター所長及び、各研修センターが所在する支部会長（中部日本・関西・四国・西日本）が中心となり実施した。

2. 開催日： 令和3年8月6日（金）・7日（土）

- ##### 3. 会 場：
- | | |
|----------|--------------------|
| 討議セッション： | オイスカ中部日本研修センター |
| シンポジウム： | JA あいち豊田本店 ふれあいホール |

③ オイスカ60周年記念国際シンポジウム

1. 概 要：

1961年10月に創立されたオイスカは、今年60周年を迎えました。これまでの60年を振り返るとともに、2030年までの10年間で目指すものを会員・支援者の皆さんと共有することを目的に国際シンポジウムを開催した。第一部では、オイスカが目指す持続可能な社会の実現に向け、EBSとBBSによるアプローチで世界課題に取り組んでいくイメージを共有し、次期10ヵ年の計画を発表した。また、トークセッションでは、これまで国内外の大規模植林プロジェクトや海外の地域開発に携わる人材の育成といったオイスカの活動にさまざまな形で参画してくださっている支援者を代表して、各々の取り組みについて事例を発表した。

2. 開催日： 令和3年10月6日(水)

3. 会 場： 国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟大ホール

5. 収益事業

総括

当法人所有の固定資産の有効活用や公益目的事業と位置付けられない受託事業等を実施、利益の100%を公益目的事業に資した。

1. 不動産等の賃貸収益

(1) 所在地：福岡県福岡市内浜一丁目 560 m²

貸与先：三菱UFJリース（株）

※事業用定期借地権設定契約

(2) 所在地：東京都杉並区和泉三丁目6-12

賃貸物件名：オイスカハウス永福町 752.20 m² (25戸分賃貸面積)

管理委託先：京王不動産（株）

※賃貸運営管理業務委託契約

(3) 所在地：東京都杉並区和泉二丁目17-5

賃貸物件名：オイスカ国際協力総合センター1階 329.81 m²

貸与先：株式会社ディアローグ

※普通賃貸契約

2. 農場管理受託収益

(1) 委託場所：愛知県豊田市勘八町（豊田市旧畜産センター） 58,371 m²

管理棟及び農場等の管理

委託者：豊田市

※業務委託契約

6. 組織の運営

令和3年度においては評議員会を1回、理事会を5回開催し、健全な運営に努めた。
会議、役員、職員に関する件は次のとおりである。

1. 会議の開催

(1) 評議員会

①令和3年度定時評議員会

日時：令和3年6月18日(金) 12:30～14:00

場所：衆議院第一議員会館 地下1階 第一会議室

議題：

第1号議案：令和2年度事業報告・決算書類(案)及び監査報告

第2号議案：理事の選任(案)について

報告事項

- ・令和3年度事業計画・予算について
- ・令和2年度特定資産運用状況について
- ・創立60周年記念イベントについて

(2) 理事会

①令和3年度第1回理事会

日時：令和3年6月3日(木) 12:30～14:00

場所：衆議院第一議員会館 地下1階 第一会議室

議題：

第1号議案：令和2年度事業報告・決算書類(案)及び監査報告

第2号議案：令和2年度新規賛助会員の承認(案)について

第3号議案：次期役員候補の推薦(案)について

第4号議案：国際協力活動推進基金管理運用規則の一部改正(案)について

第5号議案：国際協力活動推進基金(基金明細書)について

第6号議案：資金運用執行責任者の委任(案)について

報告事項

- ・令和2年度特定資産運用状況について

②令和3年度第2回理事会

日時：令和3年6月18日(金) 14:30～15:00

場所：衆議院第一議員会館 地下1階 第一会議室

議題：

第1号議案：代表理事、業務執行理事の互選(案)について

第2号議案：顧問・参与の委嘱(案)について

第3号議案：寄附金等取扱規程の一部改正(案)について

③令和3年度第3回理事会（書面審議）

日時：令和3年6月30日(水)

議題：

第1号議案：三村明夫氏（日本商工会議所会頭）への顧問委嘱(案)
について

④令和3年度第4回理事会

日時：令和3年10月27日(水) 14:00～15:00

場所：オイスカ本部 3F 会議室（ハイブリッド形式）

議題：

第1号議案：令和4年度事業計画・予算編成方針(案)について

第2号議案：ハラスメント防止規程(案)について

第3号議案：資金運用規程の一部改正(案)について

第4号議案：「オイスカ」を冠する業務直轄団体の許可（案）について

報告事項

- ・代表理事・業務執行理事の業務報告（令和3年3月～9月）
- ・60周年記念出版の進捗状況について

⑤令和3年度第5回理事会

日時：令和4年3月4日(金) 10:00～12:00

場所：衆議院第一議員会館 地下1階 第一会議室

議題：

第1号議案：令和3年度補正予算(案)について

第2号議案：令和4年度事業計画・予算(案)について

第3号議案：「オイスカ」を冠する業務直轄団体の許可（案）について

第4号議案：職務分掌の一部変更（案）について

第5号議案：令和4年度定時評議員会の開催(案)について

報告事項

- ・代表理事・業務執行理事の職務執行状況
(令和3年10月～令和4年2月)
- ・60周年記念行事・出版について

2. 役員

令和4年3月31日現在における当法人の役員等は次の通りである。

会 長

渡辺 利夫 拓殖大学顧問

(1) 評議員

No.	氏名	役職
1	荒木 光 弥	国際開発ジャーナル 編集主幹
2	岡田 康 男	弁護士
3	神野 重 行	三重産業(株) 代表取締役
4	佐伯 勇 人	四国電力(株) 取締役会長
5	佐藤 百 合	(独法) 国際交流基金 理事
6	篠塚 徹	拓殖大学北海道短期大学 学長
7	進士 五十八	福井県立大学 学長
8	中村 利 雄	(公財)全国中小企業取引振興協会 会長
9	廣野 良 吉	成蹊大学 名誉教授
10	ペマ・ギャルポ	拓殖大学 国際日本文化研究所 教授
11	マリ・クリスティーヌ	東京女子大学 現代教養学部 教授

(2) 代表理事

No.	氏名	役職
1	中野 悦 子	理事長
2	廣瀬 道 男	副理事長

(3) 業務執行理事

No.	氏名	役職
1	永石 安 明	専務理事
2	森田 章	常務理事

(4) 理事

No.	氏名	役職
1	石井 淑 雄	(株)石井 代表取締役会長
2	瓜生 道 明	西日本支部会長 九州電力(株)代表取締役会長
3	樋泉 克 夫	愛知県立大学 名誉教授
4	光岡 保 之	愛知県支部 会長
5	湧井 敏 雄	首都圏支部会長、前神奈川経済同友会専務理事

(5) 監事

No.	氏名	役職
1	神山 敏 夫	税理士・公認会計士
2	梶川 幹 夫	(株)NTTドコモ取締役・常任監査等委員

〈50音順〉

(6) 顧問

No.	氏名	役職
1	太田 猛彦	東京大学名誉教授
2	櫻田 謙悟	(公社)経済同友会代表幹事
3	篠沢 恭助	(公財)資本市場研究会顧問
4	新木 富士雄	北陸電力(株)名誉顧問
5	畝川 寛	中国電力(株)取締役監査等委員
6	戸倉 雅和	(一社)日本経済団体連合会長
7	中野 利弘	前(公財)オイスカ理事長
8	榭本 晃章	(一社)日本動力協会会長
9	松尾 新吾	九州電力(株)特別顧問
10	三村 明夫	日本商工会議所会頭

(7) 参与

No.	氏名	役職
1	泉 雅文	四国支部会長
2	逢見 直人	(公財) 富士社会教育センター理事長
3	岡崎 昌三	関西支部会長
4	小川 信也	岐阜県支部会長
5	落合 偉洲	静岡県支部会長
6	鬼石 貞治	(学)中野学園オイスカ浜松国際高校校長
7	亀井 文行	宮城県支部会長
8	木島 正芳	元東京入国管理局長
9	久 和進	富山県支部会長
10	黒柳 俊之	元(独)国際協力機構理事
11	小林 泉	大阪学院大学国際学部教授
12	茂田 和彦	(公社)大日本山林会監事
13	杉下 恒夫	(一財)国際開発機構理事長
14	中村 陽子	NPO 法人メダカのがっこう理事長
15	西脇 芳和	(公財)損保ジャパン環境財団専務理事
16	松村 秀雄	広島県支部会長
17	水本 正俊	長野県支部会長
18	宮嶋 嘉則	CELCO JAPAN 特別顧問
19	山下 雅子	社会保険労務士
20	横山 清	北海道支部会長

〈50音順、令和4年3月31日現在〉

令和3年4月1日～令和4年3月31日 賛助会員数の動向と会費入金額
会員の動向

	期首会員数		期末会員数		期首と期末の増減数	
	合計 件数	法人 個人	合計 件数	法人 個人	合計 件数	法人 個人
本部直轄	186	50 136	173	46 127	-13	-4 -9
北海道支部	74	47 27	80	55 25	6	8 -2
宮城県支部	207	118 89	205	119 86	-2	1 -3
首都圏支部	334	144 190	326	140 186	-8	-4 -4
山梨県支部	93	47 46	94	47 47	1	0 1
長野県支部	121	56 65	123	58 67	2	0 2
富山県支部	130	81 49	131	80 51	1	-1 2
静岡県支部	238	78 160	226	77 149	-12	-1 -11
愛知県支部	794	235 559	824	272 552	30	37 -7
岐阜県支部	137	37 100	132	37 95	-5	0 -5
関西支部	80	28 52	82	31 51	2	3 -1
広島県支部	67	42 25	66	42 24	-1	0 -1
四国支部	918	209 709	877	214 663	-41	5 -46
西日本支部	768	307 461	762	302 460	-6	-5 -1
合計	4,147	1,479 2,668	4,101	1,518 2,583	-46	39 -85

会費入金額(千円)

	令和2年度入金額		令和3年度入金額		前年度との 差額	前年比
	法人 個人	合計	法人 個人	合計		
	5,459	2,740 2,719	4,928	2,280 2,648	-531	90.3%
	2,390	1,870 520	2,645	2,200 445	255	110.7%
	7,170	5,070 1,500	7,960	6,320 1,640	790	111.0%
	15,848	11,720 4,128	15,453	11,240 4,213	-395	97.5%
	3,192	2,070 1,122	3,090	2,070 1,020	-102	96.8%
	3,774	2,500 1,274	3,515	2,300 1,215	-259	93.1%
	5,170	4,100 1,070	5,140	4,120 1,020	-30	99.4%
	7,182	4,540 2,642	7,244	4,590 2,654	62	100.9%
	23,133	12,590 10,543	23,693	13,250 10,443	560	102.4%
	3,674	1,830 1,844	3,494	1,770 1,724	-180	95.1%
	2,927	1,810 1,117	3,207	2,125 1,082	280	109.6%
	2,750	2,180 570	2,690	2,180 510	-60	97.8%
	24,536	10,240 14,296	23,524	10,130 13,394	-1,012	95.9%
	25,324	15,560 9,774	24,795	15,110 9,685	-529	97.9%
合計	132,530	79,410 53,120	131,378	79,685 51,693	-1,152	99.1%

附属明細書

令和4年3月
公益財団法人オイスカ

なお、令和3年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

